明治大学

農学部

大学院農学研究科

2019

“Life” makes the world go round.

学部長メッセージ

次の世代に「命」をつなげていくのが、私たちの役目。

農学とは「人類の生命の永続性」を追究する学問です。人間を生き永らえさせるためには、食料となる植物や動物をいかに効率的に増産するかが、最も重要な課題となります。とはいえ、研究の対象は食料だけではありません。農学という学問は裾野が非常に広く、私たちの衣食住すべてと密接につながっています。

たとえば、綿や麻などの自然素材を使った衣服、木造の住宅や家具、微生物を利用した医薬品・健康補助食品など。身の回りをざっと見渡してみても、「農」がつくり出した資源が私たちの文化的な暮らしを支えているのがわかるはずです。家電や自動車、パソコンなどの工業製品も、人間の生活を支えているという点では同じですが、農学と工学とでは扱う対象が異なります。工学が主に「無機物」を使って何かを造り出す学問なのに対し、農学の研究対象は「有機物」、つまり生き物です。「造る」のではなく「育てる」を学びのテーマとしているのが、農学ならではの特長といっていいでしょう。

元々は人間が生き延びるための学問として誕生した農学ですが、近年は、環境保護、生物多様性の保存などの諸問題も農学が取り組むべき新たな分野となっています。現在の地球では、温暖化現象や、野生動植物の乱獲、都市開発などにより、生態系のバランスが崩れ始めています。動物や植物を育てていくためには、生き物に目を向けるだけでなく、大気や水、土壌などの地球環境にも注目する必要があります。つまり、地球環境や生物多様性の諸問題を常に念頭におきながら、すべての命を次世代につなげていくことが、21世紀の農学に課せられた重要な役割となってきているのです。

明治大学の農学部では、現在、「食料・環境・生命」の3つをキーワードに教育・研究活動を展開していますが、すべての学びは、命を育み、尊ぶこと、すなわち地球や人類の未来につながっていきます。何らかの形で社会や人類に貢献したいという意識をもつ若者にとっては、学びがいのある学部といっていいでしょう。個人的には、農学を志す若者には「好奇心」「向上心」「功名心」の3つのKが必要だと考えています。地球上のさまざまな事象に興味をもち、問題解決に向かって努力する姿勢ももちろん大切ですが、「どうせやるからにはノーベル賞を取ってやろう！」といった積極性や功名心ももっていてほしいのです。来年度も熱いエネルギーをもった若者たちとの出会いを期待しています。

農学部長
針谷 敏夫（はりがや としお）

1952年茨城県出身。1975年東京大学農学部卒業、1980年東京大学大学院農学研究科畜産学専攻博士課程修了。農学博士。京都大学医学部助手、講師を経て、1990年より明治大学農学部講師、助教授、教授。1986～88年米国カリフォルニア大学サンタクルツ校客員研究員。専門研究分野は、応用動物学、分子内分泌学、生体機構学。近年は、プロラクチンというホルモンに関する研究を続けている。著書に「明解哺乳類の生理学[体液]」(共著)、「ホルモンの分子生物学VOL.2」(共著)など。

CONTENTS

学部長メッセージ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 01
農学部概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 03
農学部の特色 ～ 個を育てる農学部の学び ～
　① 大学の付属農場で行う農場実習 ・・・・・・・・・・・・ 05
　② 現場を通じて理解を深める
　　多数の実験授業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 07
　③ これからの農業のあり方を探る
　　少人数ゼミや実習授業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 09
農学部のカリキュラムと4年間の流れ ・・・・・・・・・・・・ 11
学科紹介
　■農学科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
　■農芸化学科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
　■生命科学科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
　■食料環境政策学科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
総合科目 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37
生田キャンパス ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
研究施設・設備 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
明治大学黒川農場 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43
国際交流（留学制度） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
大学院 農学研究科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
サポート体制 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
就職支援・資格取得 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51
入試情報 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 52

※登場する人物の在籍年次や役職等は、取材時点のものです。

明治大学農学部の歩み

食料・環境・生命をキーワードに社会に貢献できる人材を育成する学部

明治大学農学部は、1946年（昭和21年）に前身の明治農業専門学校が設立されて以来、時代と社会の要請に応じて改組・拡充を進めてきました。1949年新制大学発足時に農学科と農業経済学科の2学科を設置し、1953年には農産製造学科（1968年農芸化学科に改称）を増設。さらに2000年、生命科学科を新設して現行の4学科体制となり、2008年、農業経済学科を食料環境政策学科へと改称しました。

農学部では食料・環境・生命をキーワードに、自然と人間社会の調和を図り、生命を理解し、地球的な食料・環境問題の解決に貢献できる基礎力と応用・発展性のある人材の育成を目的とした教育と研究を行っています。また、自然科学系教員と社会・人文科学系教員の協力のもと、文理融合型の教養教育と専門教育を実施する体制を整えているのも本学部の特長です。4つの学科は独自性を保ちながら有機的関連をもってカリキュラムを編成しており、専門分野のみでなく、さまざまな分野を学部内で学ぶことができます。

生田キャンパス内の最先端の研究機器と実験圃場、2012年4月にオープンした川崎市黒川地区の明治大学黒川農場など、実験・実習を行う施設も充実しています。

［ 農学部の3つのキーワード ］

食料

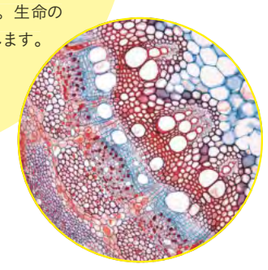
人は多様な生物を「食べる」ことによって生きています。さまざまな環境で健全な作物を効率よく生産すること、優良な性質を受け継いだ健康な家畜を育てること、発酵等を利用して食品を加工することは、人類が未来にわたって生存するための必須条件です。生産者の生活を支え、安全な食料を効率的に流通させることも大変重要です。

環境

生物は周囲の環境との関わりによって生きています。水と光は生命の源ですが、多すぎても少なすぎても生物は育ちません。地球規模の気候変動や災害は、人に新たな対応を迫っています。環境ストレスに耐える作物、環境に負荷をかけない循環型の社会、植物や微生物を利用した環境改善や快適な空間の創成が求められています。

生命

人はDNAやタンパク質などの分子レベルで生命を理解し始めました。食と環境の問題解決には、生物がいかに生きているか、体の中で何が起きているか、環境や他の生物とどう関わっているかを知ることが必要です。さらに生命を巡る地域や国際社会の動きを知ることも大切です。生命の理解は、人の健康維持や医療にも貢献します。



明治大学農学部

School of Agriculture

- 農学科
  Department of Agriculture
- 農芸化学科
  Department of Agricultural Chemistry
- 生命科学科
  Department of Life Sciences
- 食料環境政策学科
  Department of Agri-food and Environmental Policy

▼

明治大学大学院 農学研究科
（博士前期課程・博士後期課程）

Graduate School of Agriculture

- 農芸化学専攻
  Agricultural Chemistry Program
- 農学専攻
  Agriculture Program
- 農業経済学専攻
  Agricultural Economics Program
- 生命科学専攻
  Life Sciences Program

大学院 農学研究科の歩み

農学研究科は、1959年の農産製造学専攻の設置とともに生田キャンパスに発足しました。1978年の機構改革に伴って、農産製造学専攻を農芸化学専攻に改称し、新たに農学専攻・農業経済学専攻を設置しました。さらに2003年に生命科学専攻の設置により現在の4専攻制となりました。各専攻には、博士前期課程・博士後期課程が設置され、研究活動に邁進しています（くわしい情報は「明治大学 大学院ガイドブック」をご覧ください）。

明治大学農学部の強み

4つの特色で
「全人教育」を推進

Point 1 現場を通じて理解を深める 多数の実習・実験

1・2年次は、農学全般を幅広く学ぶことができるように基礎科目と総合科目を並列し、多数の実験・実習を設置。基礎をしっかり学んだ後に段階的に専門性を高められるように科目を配置しています。

▶詳細はP.07

Point 2 大学付属の黒川農場で行う 各科共通の農場実習

「実地を重視し、実地を通じて理解を深め、研究をすすめる」という農学の基本的性格を具体的に展開・経験できるように、全学科共通基礎科目として1年次に明治大学黒川農場における農場実習が設置されています。

▶詳細はP.05

Point 3 3年次から始まる卒論関係科目 文献調査・特別研究

3年次からは、専門とする研究分野に関係の深い科目を中心に、文献調査や特別研究など、ゼミ・研究室に関わる科目や活動が増えてくるため、学生の学びへの主体性・積極性が重視されます。

Point 4 最新鋭の研究施設と設備 高度な先端研究

バイオサイエンスをはじめとする科学・技術の革新を常にふまえ、最先端の農学研究に要求される高度な研究機器類や施設を多数設置し、研究体制の充実を図っています。

▶詳細はP.40

個を育てる農学部の学び①　Class Report

生産現場を体験することで農学を学ぶ意味がおのずとわかってくる

黒川農場
農場実習

農学部では、9割以上の学生が1年次に「農場実習」を体験します。自らの手で作物を育てる中で、学生たちは生命を育むことの楽しさ、難しさに気づき、農学を学ぶ本当の意味を知ることになります。

生産現場を知ることが農学を学ぶスタート地点となる

農学部全学科共通の科目として1年生を対象に開講されているのが、黒川農場で行われる「農場実習」です。入学して間もない学生たちの多くは、まだ実体験としての農業を知りません。そんな学生たちに、すべての農学のベースとなる「生産現場」を知ってもらうために設置されているのが、この授業です。

畑に蒔いた小さな種は、やがて花を咲かせて実を結びます。一見、当たり前のことのように思えるかもしれませんが、実際にそれを体験してみることで、新たな発見や感動が生まれます。手をかければかけるほど、作物はそれに応えて成長していくことがわかってくるし、自ら汗を流しながら作物を育てることで、普段なにげなく食べていた野菜や穀物を生産するのに、どれだけ多くの労力や時間がかかっているのかも実感できるようになります。教科書や文献だけでは絶対に知ることのできないリアルな学びを体験できるのが、農場実習の魅力といっていいでしょう。

明治大学農学部では、かつては山梨と千葉に設置された2カ所の農場で夏季短期集中型の農場実習（2泊3日）を実施していましたが、「それだけでは本当の生産現場を体験したことにはならない」という思いから、2012年度に川崎市内に黒川農場を開設。現在は年間を通じての農場実習が可能となっています。

実習は教員だけでなく、農場職員、現場経験をもつ嘱託スタッフたちの協力のもと行われるため、農作業に不慣れな学生たちも安心です。最初は泥だらけになることに抵抗を感じていた学生もすぐに作業に夢中になり、徐々に農業のおもしろさに魅き込まれていきます。選んだ学科によって環境、食料、生命と専門分野に違いはあるものの、農学すべての基礎となるのは「命を育む」という意識です。現場でそれを身をもって体験することで、農学を学ぶ目的や意味がおのずと理解できるようになっていきます。

MESSAGE　**玉置 雅彦 教授**

畑で作物を実際に育ててみると「せっかくここまで育ったのだから、なんとか花を咲かせて、実をつけるまで面倒を見てあげたい」という気持ちが自然に生まれてきます。研究や学習も同じで、途中で投げ出してしまっては、そこからは何も収穫できません。何事に対しても「諦めることなく、最後までやり遂げる熱意」が大切なのです。大学という畑でどんな花を咲かせるかは、あなたの努力次第ですよ。

PROFILE

1984年名古屋大学農学部卒業。1990年同大学院農学研究科修了。山口大学農学部助手、文部省在外研究員（オレゴン州立大学）、広島県立大学生物資源学部・生命環境学部教授等を経て、2006年より現職。専門はアグリサイエンス。

STUDENT VOICE

黒川農場で学ぶ農学の基礎と命の育み

農芸化学科1年
髙橋 裕太郎
埼玉県私立
東京農業大学
第三高等学校卒業

私が所属する農芸化学科は実験が多い学科で、農場実習は私にとって農業の現場にふれることができる良い機会で毎回とても楽しみでした。私は今まで農作業の経験が少なかったのですが実習では先生方や職員の方々が作物の知識や作業を丁寧に教えてくれました。5月頃に種をまき、夏頃に収穫し、みなで調理し最後に片付けまで一連の農作業の流れの一部を体験することで、季節の流れとともに作物の生育を実感し命を育てる楽しさや大変さを学びました。黒川農場での実習は農作業だけでなく、先生方が黒川農場で現在行っている研究や日本の農業の現状等の講義をしてくださる機会があります。先生方の講義は、私にとって今後4年間大学でどんな勉強をしたいか、将来どんな研究がしたいかを見つける良い機会になりました。

12月に大根の収穫作業を行う学生たち。農場実習は全学科必修ではありませんが、9割以上の学生が履修しています。

農場実習では単に農作業を体験するだけではなく、担当教員の指導のもと、作物ごとの適切な栽培方法や、里山をフィールドに自然環境の重要性などについても学んでいきます。

COLUMN　**黒川農場で学ぶ**

最先端農場が2012年に開場

農場実習の授業は、川崎市麻生区に2012年、新しく開場した「明治大学黒川農場」で行われます。生田キャンパスからも近いため、学生たちは種蒔きから収穫まで、農作業の工程を一年を通して体験できます。また、「環境・自然・地域との共生」をコンセプトにつくられた農場内には、露地圃場のほか、温室、人工光・閉鎖型苗生産システム、加工実習棟、里山など数多くの設備・施設があり、最先端技術を駆使した農業生産から、有機農法の実践、環境保全への取り組みまで、さまざまな実習が可能となっています。黒川農場で学生や農場スタッフが生産した野菜や加工品は、学内販売も行っており、生田・駿河台・和泉・中野の各キャンパスで購入できます。

個を育てる農学部の学び②　Class Report

将来進むべき道を選択する際の大きなきっかけともなる実験・実習授業

食品化学・食品分析実験

座学だけではなく、実習を通じて理解を深めることを目的とした実験・実習の授業が多いのも明治大学農学部の特長です。さまざまな実験を体験する中で、自分の興味の対象、進むべき道がより明確になっていきます。

各学科に必要不可欠な知識・技術を修得し、専門的に研究するための礎となる実験授業

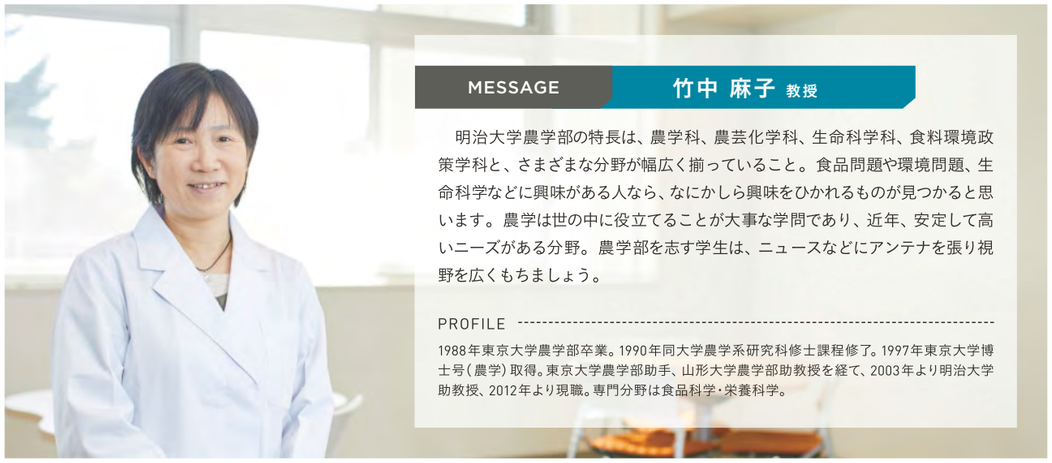
農学部の1・2年次のカリキュラムには、農学全般の基礎を実体験の中で幅広く学べる「実験・実習授業」が多く導入されています。農芸化学科の2年生を対象とした「食品化学・食品分析実験」もそのひとつです。農芸化学科では、1・2年次に専門的な研究に進むためのベースとなる知識・スキルを身につけ、3・4年次に、それぞれが興味をもった専門分野の研究を行うことになりますが、この授業はいわば、1・2年次で行う実験の集大成。教員と大学院生のティーチングアシスタントがきめ細かい指導を行います。

「食品化学・食品分析実験」は、その名の通り、食品の中に入っている成分（タンパク質、脂質、炭水化物、糖、ビタミン、ミネラル、水分など）を分析する実験。あらゆる食品化学実験の基礎となる実験です。専門的な機械を使うこともありますが、むしろガラス器具などの古典的な実験器具を用いて分析を行うことが多く、食品成分の分析原理と手法を学ぶことができます。各自で食品の成分を定量し、その結果を各自で評価し、食品の成分を理解する。この実験で得た経験、知識、技術は、将来、食品分析業務に携わる学生にとっては、直接的に役に立つことはいうまでもなく、農芸化学科の卒業生の多くが進路として選ぶ食品関係の仕事において、まさに血となり肉となる内容です。授業を担当する竹中教授はこう語ります。「この授業を通して、正確な分析手法を自分のものとして定着させ、以降、簡単な指示を与えられたときに、自ら考えて実験ができる力を身につけてほしいですね」

このような基礎実験は農芸化学科だけでなく各学科にも設けられており、専門的な研究においてはもちろん、卒業後もいき続ける貴重な実体験となるのです。

自らの手で実験器具にふれることで、正確な使用方法を習得していきます。

農芸化学科1・2年次の実験の集大成となる「食品化学・食品分析実験」。ここで学ぶ知識や技術が、後の本格的な研究につながるため、説明を聞く姿勢にも力が入ります。



MESSAGE　**竹中 麻子 教授**

明治大学農学部の特長は、農学科、農芸化学科、生命科学科、食料環境政策学科と、さまざまな分野が幅広く揃っていること。食品問題や環境問題、生命科学などに興味がある人なら、なにかしら興味をひかれるものが見つかると思います。農学は世の中に役立てることが大事な学問であり、近年、安定して高いニーズがある分野。農学部を志す学生は、ニュースなどにアンテナを張り視野を広くもちましょう。

PROFILE

1988年東京大学農学部卒業。1990年同大学農学系研究科修士課程修了。1997年東京大学博士号（農学）取得。東京大学農学部助手、山形大学農学部助教授を経て、2003年より明治大学助教授、2012年より現職。専門分野は食品科学・栄養科学。

STUDENT VOICE

食品分野をさらに学ぶ

農芸化学科2年
斉藤 真由
北海道私立
立命館慶祥高等学校卒業

2年次では食品化学・食品分析実験を履修することができます。この実験では、1年次に習得した基礎的な実験技術と知識を用いて食品化学に関して学んでいきます。複数の実験内容を一つひとつ丁寧に行い、食品を分析するために必要な実験技術を身につけます。並行して食品化学の講義を受講すればさらに知識を深めることができます。この実験は自分の所属する研究室選びにも大きく関わってくる大切な学生実験です。実験と講義を重ねて学ぶことで、自分のやりたいこと、進みたい分野が明確になってくると思います。食品化学実験は単純なようでとても複雑な実験です。私は先生方とTAのおかげでこの実験を楽しく、熱心に学ぶことができました。

PICK UP　**その他の注目授業**

農学実験 Ⅰ〜Ⅵ

農学科
池田 敬 教授

農学科は、作物・園芸学、植物保護学、分子生物学、畜産学、農業土木学、緑地学などを集約した、農業・農学に関わる分野を幅広く学習できる学科です。その基礎となる実験実習を行うのが農学実験です。農学科すべての教員が担当する6科目からなり、それぞれの分野での実験学習を行います。多方面から総合的に学習し、広い視野で農学と向き合うためのカリキュラムです。

生命科学実験 Ⅰ〜Ⅳ

生命科学科
紀藤 圭治 准教授

本学科では、動物・植物・微生物を対象とし、分子レベルから個体全体までさまざまな実験手法を学びます。グループ単位で実験を行いますが、主体的に実験に取り組み、そのプロセスや結果を自ら考察することで、実験手技や基本原理、実験を進めるうえでの考え方を身につけることができます。授業で培われた素養は、その後の研究室での活動に大いに役立つことが期待されます。

個を育てる農学部の学び③ Class Report

文系でも少人数教育や実習を重視する — 食料環境政策学科のプログラム —

少人数ゼミと多彩な実習科目

農学部には文系学科として食料環境政策学科が設置されていますが、ここでも政策学科独自のファームステイ実習や、他学科同様の農場実習など、現場での実習を重視しています。また、少人数制のゼミが充実しているのも食料環境政策学科の特長です。

少人数ゼミに加えて、農場実習、ファームステイ実習など多彩な実習科目を用意

食料環境政策学科では、まず1年次春学期に、大学で学ぶうえでの基礎の基礎、いわば学問リテラシーを身につけることを目的とした「基礎ゼミ」を実施します。続いて2年次秋学期には、各教員の専門とする分野で、課題を発見・考察し、解決策を探るために何をすべきかについて、能動的に学ぶ「プロジェクトゼミ」があります。緊密な指導と学生の積極的な参加が特長で、3年次からのゼミ活動に備えるものとして位置付けています。そして3・4年次には「リサーチゼミ・卒論ゼミ」に参加します（研究室に所属）。活発なディスカッションの場を設けるとともに、3年次は研究室単位でフィールドワーク実習等を行い、4年次には教員の指導を受けながら、大学における学習の集大成としての卒業論文の完成を目指します。一方、実習科目としては、1年次に黒川農場での農場実習、2年次にはファームステイ実習を実施します。国内の10カ所程度の研修地の中から1カ所を選び、農家の人々と起居寝食を1週間ともにするファームステイ実習は、経営・家計・生活を総合的に把握するのに役立つだけでなく、農村生活の実情にふれ、経験を豊かにしてくれます。希望者は、さらに海外での実習「海外農業体験」（主に中国の農業企業における研修）にも参加可能です。3年次に入ると、研究室ごとに「フィールドワーク実習」として、実際に地域に赴いて調査を行います。この実習は、調査方法を学び、対象地域の実情を知るとともに、データを収集し分析する能力や問題解決に必要な応用力を身につけることを目的としています。さらにレポートにまとめることを通して、表現能力の向上を図ります。積極的な学生は、加えて「インターンシップ」にも参加しています。インターンシップは、学生の自主的な研修を単位化するものであり、いくつかの研修先については大学側からの斡旋も行っています。

MESSAGE 中嶋 晋作 専任講師

ファームステイ実習では1週間の間、生産農家のお宅に分宿して農作業のお手伝いをします。その中で農業の大変さを身をもって体験し、農家の方々と寝食をともにすることで、農村の生活を肌で感じることができます。「おいしいご飯をいただいて太った」という学生もいれば、「いっぱい汗をかいて痩せた」という人もいます。研修後、たくましい顔つきに変わった学生を見るのは教員としての喜びでもあります。

PROFILE

2002年明治大学農学部農業経済学科卒業。2004年東京大学大学院農学生命科学研究科修士課程修了。2008年同博士課程修了。専門分野は農業経済学。

STUDENT VOICE

農作業を体験し現地での生活や農業経営を学ぶ

食料環境政策学科2年
安江 真美
愛知県私立
椙山女学園高等学校卒業

山梨県笛吹市の観光農園でのファームステイ実習に参加し、桃のシルバー敷き、ブドウの袋掛け、観光農園での加工品づくりや接客等を体験しました。作業は暑さとの闘いでもあり大変でしたが、観光農園のスタッフの方々はとても気さくで、親切に作業を教えてくださいました。農園の方々の温かさを感じながら充実した一週間で、桃、ブドウひとつつくるにはいくつもの欠かせない地道な過程があり、どの作業も丁寧に愛情をこめてつくっていることを肌で感じることができました。おいしさの背景には、想像以上に体力のいる作業も多く、苦労があることを知ると同時に、桃、ブドウの価値の重みを実感しました。この研修から得る農作業に対する知識や考え方は大学生活の中において大変貴重なものであり、実際に現場で経験してみることの大切さを知りました。

実習先の農家さんと一緒に記念写真。

このような美しい農村風景の中で生活できるのも実習の魅力です。

PICK UP 注目授業

基礎ゼミ

食料環境政策学科
岡 通太郎 専任講師

大学での学びとは？と問われてイメージするもののひとつに、ゼミナール活動があるかもしれません。基礎ゼミは、3年次から始まるリサーチゼミの「基礎」を学ぶことを第一の目的としています。ゼミでは、仲間をお互いにうまく「利用」し、切磋琢磨していくために、ある程度のコツが必要です。そのコツを習得するのが、基礎ゼミです。たとえば、仲間と意見が異なるときの論点整理の仕方は重要なコツのひとつです。少人数の受講者と教員1名で、ひとつの課題図書を読んだり、資料や論文の検索方法などを学びながら、基礎を習得していきます。

段階的に専門知識を学べるカリキュラム

1・2年次は、農学全般を幅広く学ぶことができるように、各学科の基礎科目群と総合科目を並列したカリキュラムを設定。学科の枠を越えて幅広い知識を得ることで、農学という分野が自然、社会、人間、あらゆるものの基礎になっているということを、まずは理解します。3年次からは研究室に所属し、各自の専攻科目を重点的に学んでいきます。単に専門的な知識や技術を習得するだけでなく、全地球的、全生物的視野に立ってマクロ的に事象を把握し、対処できる人材の養成を目指します。

[カリキュラムの特長]

総合科目（全学科共通）

幅広い領域をカバーしたカリキュラムで、農学に関する土台を確実に身につける

- 共通科目群
- 外国語科目群
- 保健・体育科目群
- 総合科目ゼミナール（サブ・ゼミナール）

専攻科目

2年次から3・4年次にかけて、専攻科目を関連づけて学習できる履修モデルを準備

- 基礎科目群
- 専攻科目群
- 卒論関係科目群
- フィールドサイエンス科目群

[専門性を高める学び]

1・2年次
専門分野の実験・実習に取り組む
講義で得た知識をより いかすための 体験型教育

3・4年次
研究室に所属し、卒業研究に取り組む
少人数の 学生と教員との マンツーマン教育

[農学部共通科目担当教員]

アグリサイエンス論研究室
（理系3学科共通研究室）

夢のある農業を実現しよう

玉置 雅彦
教授／農学博士
農学に工学の技術を融合させた、若い人達にも夢の描ける環境に優しい21世紀型の作物生産システムの実現を目指しています。

フィールド先端農学研究室
（理系3学科共通研究室）

最先端の植物工場技術を習得しよう

伊藤 善一
専任講師／博士（農学）
植物の栽培・管理技術を中心に置いた施設園芸および、植物工場における園芸作物の高品質・高収量生産技術について研究しています。

英語農学研究室
（4学科共通研究室）

農業環境科学や政策を英語で学ぶ

McTaggart Iain
准教授／Ph.D.
地球温暖化や気候変動について英語で情報を集め、食料生産・健康・環境等に与える影響や適応政策について研究し、英語で発表します。

[農学部4年間の流れ]

1 年次

自分の興味や将来の希望を見据え、4年間の学習目標全体を考えます。総合科目（共通科目群、外国語科目群、保健・体育科目群）を中心に1年次に指定された専攻科目基礎科目を学びます。次第に学科ごとの違いや、自分が専門として何を学ぶべきかが明らかになってくるでしょう。

未来の自分を想像する1年

生命科学科1年
渡邉 紗希
神奈川県私立横浜隼人高等学校卒業

生命科学科の1年次では、総合科目の学習に加えて、すべての生命科学分野において土台となる知識や生命科学実験の基本的な手法の理解を深めます。生物学の最も基本的な知識を、分子生物学、化学、動物、植物、微生物、遺伝学などさまざまな角度からまんべんなく学習することができるので、生物学に対する知識を習得すると同時に、これから自分が専門的に学びたい、研究したいと思う分野に出会う機会にもなります。1年次では、2年次、3年次と比べると、選択する科目の自由度が低く、高校の頃のように決められた時間割を淡々とこなしていくといった、受動的な姿勢になりやすいですが、大学では自分から学ぼうとする能動的な姿勢が重要となります。この学科にきて、自分は何を学びたいのか。1年次はその答えを探す1年にしましょう。

2 年次

総合科目と専攻科目の基礎科目群に、専攻科目群が加わってきます。学科の枠を越え、幅広い知識を得ることで、おのずと農学という分野が、自然・社会・人間のあらゆる基礎と、その上に繰り広げられた成果によって支えられていることに気づくはずです。

やりたいことが見えてくる

食料環境政策学科2年
渡邊 正明
神奈川県立川和高等学校卒業

農業にはさまざまな要素が絡んでいます。食料環境政策学科の2年次での座学は主に「食と農」、「環境と資源」の分野に分かれ、そこから興味のある講義を選択します。実習では1週間農家さんにお世話になるファームステイ実習や、中国での海外農業体験があります。2年次での実習は実際に現場に出て、農家さんと暮らしをともにする中で、座学からは見えない現状や課題、可能性などを発見することになります。このように専門的な講義と現場が組み合わさることで、実用的な社会科学の感性が磨かれていきます。私はこの2年を通し、普段見慣れた風景やスーパー、通学路までもが興味の対象へと変わっていきました。至るところに農業は存在します。多様な角度から農業を見つめ、自分のものさしを増やす中で、自然とやりたいことが見えてきます。

3 年次

専攻科目を重点的に学ぶ学年です。各自の所属する学科と、専門とする研究分野（ゼミ・研究室のテーマ）に関係の深い科目を中心に授業計画を立てます。文献調査や卒業研究など、ゼミ・研究室に関わる科目や活動も加わるため、とても重要かつ充実した1年になります。

これまでの学習をいかすステージへ

農学科3年
間瀬 智仁
神奈川県立小田原高等学校卒業

1・2年次の授業は基礎的な内容が主であるのに対し、3年次以降の授業はより専門的な内容のものが多くなります。また3年次になると各研究室への配属が決まり、自分が興味のある分野をより専門的に学べるようになります。1・2年次での学習はここから先の研究活動をしていくうえでの土台となり、ようやく学んできた内容をいかせる段階に入ります。大学での研究活動には、中学や高校までの学習とは大きく異なる点があります。それは「そこに正しい答えはなく、あるのは問題点だけ」ということです。この、問題の解決法を理論的、実験的に導くという“0から1を生み出す作業”は、社会に出てからも大いに必要とされる能力です。この力を鍛える意味でも3年次以降はとてもやりがいのある年次となるでしょう。

4 年次

卒論のための研究が中心になります。視野を広げるため、前年度まで履修していない科目を補うこともできます。進学希望者は大学院科目の一部を学ぶこともできます。最後の仕上げの年です。就職・進学の準備をしながら、悔いのない学生生活を送りましょう。

学びの実りが実感できる年

農芸化学科4年
石井 萌香
東京都立西高等学校卒業

4年次になると受動的に学ぶことよりも能動的に学ぶ機会が多くなります。研究活動がそのひとつです。学んだ分野を詳しく知るために、自分の力で研究を続けていくことが主な活動になります。自分で設定した研究テーマについて突き詰めていくことはとても楽しいですが、時には自分の予想外の結果となり困惑することもあります。しかし、1・2年次の座学や基礎実験で学んできた知識が研究の要になるということを改めて実感することができますし、3年次に授業と研究を両立して取り組んできたことも力となります。また、一緒に研究する仲間、全力で支えてくれる教授の助けを受けながら充実した日々を過ごすことができます。学部生活の集大成として周囲への感謝も感じつつ、自分の突き詰めたい研究ができる環境が4年次には揃っていると感じています。

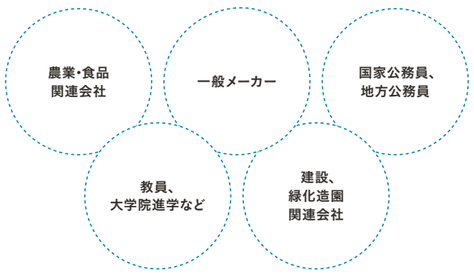
▶農学科

Department of Agriculture

食料生産と環境保全の分野で社会貢献を目指す

農学科は、自然と調和を保った高度文明社会を実現させるために、「食料」と「環境」の分野で地域や国際社会で活躍できる人材を養成することを使命としています。人類の持続的生存について俯瞰的・長期的視点から洞察し、農学全般においての問題点を発見し、それらを解決する能力を身につけられるよう、系統的かつ幅広いカリキュラムと研究領域を設けているのが本学科の特長といっていいでしょう。学生は3年次より「食糧生産・環境コース」、または「総合農学コース」のどちらかに所属し、一般教育で裏づけられた倫理観・世界観をベースに、新農業資源の開発、水・土地資源をいかした食料の安定生産、農村と都市の環境保全や緑の保全・創生などに関する専門知識を身につけていくことになります。また、本学科の教育プログラムはJABEE（日本技術者教育認定機構）の認定を受けており、卒業生は技術士補の資格を取得することができます。

目指す将来イメージ



教員からのメッセージ

グローバルな
時代に活躍できる
能力を身につける

果樹園芸学研究室
岩﨑 直人 教授

農学科のカリキュラムは、食料と環境に関連した多様な科目で構成されています。1・2年次では一般教育科目や基礎科目を、3・4年次では専攻科目を体系的に学ぶことで、人類の持続的生存について地球的、多面的な視点から考える能力と知識を身につけることができます。さらに、3・4年次の2年間で履修する「卒論」では、各研究室の教員とともに自ら設定した課題に取り組むことで、継続して知識を習得し、問題を解決する能力を身につけることができます。大学で培ったさまざまな能力をいかして、国際的に活躍されることを期待しています。

［ 学科主要科目 ］

1年次

▶基礎科目群

科学基礎科目

春学期	秋学期
数学概論(2)	化学概論(2)
地学概論(2)	物理学概論(2)
地学実験(1)	ICTベーシックⅡ(2)
ICTエレメンタリー(2)	
ICTベーシックⅠ(2)	

農学基礎科目

春学期	秋学期
農学基礎実験(1)	農学基礎実験(1)
基礎生物統計学(2)	応用生物統計学(2)
ICT統計解析Ⅰ(2)	遺伝学(2)
ICTデータベースⅠ(2)	図学(2)
分子生物学(2)	生化学(2)
	土壌学(2)
	ICT統計解析Ⅱ(2)
	ICTデータベースⅡ(2)
	基礎植物育種学(2)

導入科目

春学期	秋学期
栽培学入門(2)	基礎動物生産学(2)
動物生理学入門(2)	生産環境学入門(2)
	緑地学入門(2)

▶専攻科目群

専門実習Ⅰ(1)
専門実習Ⅱ(1)

▶フィールドサイエンス科目群

春学期	秋学期
農場実習(1)　アグリサイエンス論(2)	農場実習(1)　フィールド先端農学(2)

2年次

▶基礎科目群

科学基礎科目

春学期	秋学期
物理学実験(1)	

農学基礎科目

春学期	秋学期
植物生理生態学(2)	動物遺伝資源学(2)
植物分類・形態学(2)	遺伝子工学(2)
測量学Ⅰ(2)	測量実習Ⅰ(1)
	植物遺伝資源学(2)
	緑地植物植栽学(2)

▶専攻科目群（基幹科目）

春学期	秋学期
動物保全生態学(2)	農学実験Ⅲ(1)
	環境デザイン学(2)
	農学実験Ⅰ(1)
	農学実験Ⅴ(1)
	農地工学(2)
	作物学概論(2)
	動物生産学(2)
	植物保護学概論(2)
	農学実験Ⅱ(1)
	生産システム学概論(2)
	動物行動学(2)
	農学実験Ⅵ(1)
	園芸学概論(2)
	水理学(2)
	環境気象学(2)
	農学実験Ⅳ(1)
	土質力学(2)

▶専攻科目群（分野別科目）

食糧生産関係

春学期	秋学期
資源植物学(2)	動物感染症学(2)
動物資源繁殖学(2)	植物防疫論(2)
熱帯農学(2)	

環境関係

春学期	秋学期
応用力学(2)	構造力学(2)
	測量学Ⅱ(2)
	測量実習Ⅱ(1)

3年次

▶基礎科目群

春学期	秋学期
技術者倫理(2)	英語農学Ⅱ(2)
英語農学Ⅰ(2)	化学実験(1)

▶専攻科目群（分野別科目）

食糧生産関係

春学期	秋学期
動物育種学(2)	動物資源機能
動物生産制御学(2)	利用学(2)
動物栄養制御学(2)	動物環境学(2)
農業水利学(2)	実験動物学(2)
野菜園芸学(2)	工芸作物学(2)
花卉園芸学(2)	植物ウイルス学(2)
植物育種学(2)	植物病害制御学(2)
生産システム学(2)	害虫管理学(2)
食用作物学(2)	線虫制御学(2)
果樹園芸学(2)	有害動物学(2)
肥料学(2)	園芸植物繁殖学(2)
植物病理学(2)	植物成長制御学(2)
応用昆虫学(2)	
植物線虫学(2)	

環境関係

春学期	秋学期
農村計画学(2)	
生産気象学(2)	
応用水理学(2)	
土壌物理学(2)	
材料施工学(2)	
プロジェクト計画法(2)	
植物保全生態学(2)	生物多様性デザイン学(2)
雑草学(2)	緑地管理学(2)
環境緑化学(2)	都市公園論(2)
景観園芸学(2)	緑地工学(2)
緑空間設計学(2)	自然公園論(2)
緑地環境学(2)	
緑地計画学(2)	

3・4年次

▶卒論関係科目群

文献調査・特別研究（卒論）(8)
食糧生産・環境コース：必修　　総合農学コース：選択

※カリキュラムが変更となる場合があります。　※（　）内は単位数。

詳しくはホームページへ。　http://www.meiji.ac.jp/agri/department/agriculture/cr_no2004.html

[農学科の4年間の学び]

1年次 → 2年次 → 3年次 → 4年次

自分の興味のある分野を見つける

農学科1年
藤田 茉友
広島県私立ノートルダム清心高等学校卒業

農学科の１年次では農学の基礎を、生物学だけでなく化学、経済、統計、健康、デザインなどさまざまな視点から学びます。日々の学びの中で、農学には想像していたよりも多くの分野があることを知り興味の幅が広がりました。また科目同士の関連性がわかるようになり、ますます農業を勉強することが楽しくなりました。さまざまな講義を受けて、まずは自分のやりたいことを探してみましょう。

〈 時間割の例（1年次）〉 上段：春学期、下段：秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	生物学基礎		栽培学入門		基礎生物統計学	スペイン語Ⅰa
		基礎動物生産学	民俗学	土壌学	応用生物統計学	スペイン語Ⅰb
2	健康科学	英語Ⅰa	スポーツ実習Ⅰ	科学英語	心理学A	スペイン語Ⅱa
		英語Ⅰb	生産環境学入門	アグリサイエンス論	心理学B	スペイン語Ⅱb
3	農場実習	地学実験	動物生理学入門	分子生物学		–
	農学基礎実験	英語Ⅲ	緑地学入門	生化学	科学英語	
4	農場実習	地学実験	–	–	–	–
	農学基礎実験	農業経済初歩概説				
5	–	–	地学概論	–		–
					図学	

将来を見据えたうえでの授業選び

農学科2年
加藤 大河
東京都私立錦城高等学校卒業

２年次になると、１年次のときに比べて自分は将来何がしたいのかを考えながら授業を選ぶことになります。具体的には、どの研究室に進みたいのか、どのような分野の研究を将来したいのかを考えつつ授業を選びます。特に、実験・実習の授業を受けることで農学科の研究室ではそれぞれどのような研究がなされているのかを深く学ぶことができ、自分に合った研究分野を見つけられるでしょう。

〈 時間割の例（2年次）〉 上段：春学期、下段：秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	植物分類・形態学	資源植物学		動物遺伝資源学	英語Ⅱa	–
			植物防疫論	土壌学	英語Ⅱb	
2		–	科学英語	博物館学概論	動物保全生態学	–
	緑地植物植栽学		動物行動学	博物館情報・メディア論	植物保護学概論	
3	農学実験Ⅰ	測量実習Ⅰ	農学実験Ⅲ	博物館資料論	農学実験Ⅴ	–
	外国文学	測量実習Ⅱ	農学実験Ⅱ	生産システム学概論		
4	農学実験Ⅰ	測量実習Ⅰ	農学実験Ⅲ	植物生理生態学	農学実験Ⅴ	–
		測量実習Ⅱ	農学実験Ⅱ			
5	作物学概論	共通総合講座Ⅰ（キャリア形成支援講座1） 環境気象学	–	–	–	–

主体性をもって学ぶ

農学科3年
島 都規子
富山県立高岡高等学校卒業

農学科では幅広い分野を学ぶことができ、１年次から比較的自由に履修を選択できるのが魅力だと思います。１・２年次は授業を通して農学の基礎を身につけ、３年次からは研究室に所属して自分の興味のある分野についてより専門的に学びます。研究活動では主体性が求められ、自ら考え行動する必要があるので、さまざまな分野を学ぶ中で本当にやりたいことを見つけることが重要です。

〈 時間割の例（3年次）〉 上段：春学期、下段：秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	植物病害制御学	–	野菜園芸学	–	有害動物学	–
2	植物保全生態学	応用力学	微気象学	ゼミ	地域環境計画学	–
		構造力学				
3	応用水理学	職業指導	–		環境緑化学	–
		工芸作物学				
4	英語農学Ⅰ	植物線虫学	–	緑地環境学	プロジェクト計画法	–
5	技術者倫理	–	–	–	–	–

大学生活の集大成

農学科4年
井上 拓人
静岡県私立静岡聖光学院高等学校卒業

４年次は研究室の活動が中心となります。３年次に実験を開始し、４年次に卒業論文の執筆にとりかかるというのが主な流れでした。卒業論文を書く際は、結果から何がいえるのか、という考察が重要になります。それをふまえ、これまでに学んできた知識と新たに調べた文献を用いて、文章としてまとめていきます。大変な作業ではありますが、社会に出て活動していくうえで重要なスキルになるはずです。

〈 時間割の例（4年次）〉 上段：春学期、下段：秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究
			スポーツ実習Ⅱ			
2	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究
3	卒業研究	ゼミ	卒業研究	卒業研究	ゼミ	卒業研究
4	卒業研究	ゼミ	卒業研究	教育実習ⅡA	ゼミ	卒業研究
		卒業研究		教育実践演習	卒業研究	
5	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究

授業REPORT 農学基礎実験

科学実験の基礎を養い、楽しく学ぶ

農学を学ぶうえで「実物を通して考える」ことは大切です。実験科目は教科書的な言葉や図表を覚えるのではなく、手を動かして実験を行い自分の目で観察します。そして、得られたデータに基づいて考え、理解する方法を学ぶ授業です。農学基礎実験ではこれから研究を行ううえで必要となる基礎的な実験法やデータの扱い方（レポートの書き方など）を学びながら、「実験の基本」を身につけることができます。

担当教員より
大里 修一
准教授

農学基礎実験はこれから実験をはじめる1年生が実験器具の使い方、観察の方法、データ解析のやり方を学びながら、実験の基本的な知識と技術を身につけ、「実験の楽しさ」を知ってもらうことを期待しています。

授業REPORT 農学実験Ⅴ

キャンパスの自然と環境調査

農学実験Ⅴでは生田キャンパスの草原の一部を刈り取り、事前事後に植物群落とアブラコウモリなどの生物的な環境と気象や土壌水分などの非生物的な環境を測定します。学生が仮説を立てて自分で考えることを重視しています。人間の環境についてはデザインを中心に実習を行っています。

担当教員より
倉本 宣
教授

坂の上が平坦なキャンパスは、明治初期の地形図でも同じ形をしています。地形改変のないキャンパスをいかし、実際に改変してみることを通じて野生の生きものとの共存や気象の変化に着目しながら環境について学んでいます。

研究室REPORT 地域環境計画研究室

生産現場に直結する技術開発

「地域環境計画研究室」は、農地を中心とした農村環境について、土地利用計画と資源管理のあり方からその保全に貢献する研究を展開しています。生田キャンパス周辺のような都市近郊、津波や原子力災害の被災地などを対象に、耕作放棄地の解消、鳥獣害の防止、農地利用の担い手の確保などの多様なテーマを展開しています。研究成果が現場で役に立つことを意識して、課題に取り組んでいます。

担当教員より
服部 俊宏
准教授

研究では、各地の現場に出向いて関係者の方々にお話をうかがって回ることが調査の基本になります。現場に教わりながら、そこから自分なりの発見をすることでそれぞれが成長できればと考えています。

研究室REPORT 動物環境学研究室

人や動物にとってより良い環境を

動物と環境は密接に関係し、動物が環境へ、環境が動物へ相互に影響し合っています。動物環境学研究室では、実験動物であるラットを用いて、飼育環境や化学物質などの環境因子が動物行動や生理にどのような影響があるのかを明らかとする研究を行っています。写真は不安様行動を高架十字迷路試験で検出しているところです。動物を扱う基本的な技術と倫理観について習得すると同時に、研究の楽しさを知っていただけたらと思います。

担当教員より
川口 真以子
専任講師

動物行動やその調整機構を指標に、環境がおよぼす生体への影響について一歩一歩解明し、研究を通じて学生に成長してもらうことで、50年後、100年後の未来にささやかながら貢献していきたいと思っております。

卒業生からのメッセージ

「本質を見ること」を教わった

2011年
農学部農学科
（果樹園芸学研究室）卒業
吉田 雅貴
福島県農林水産部園芸課勤務

果樹園芸学研究室でカキの休眠を研究し、紫雲塾古武道部で副将兼主務を務め、厳しくも楽しい4年間でした。専攻で地元貢献という思いから技術系公務員を志望し、入庁直前に東日本大震災が発生しましたが、あの混乱を乗り切れたのは、生田で学んだ物事に対する姿勢と実行力あってのものだと思います。現在は、園芸産地振興や県育成品種推進等を担当し、当時の知識は今も役立っています。自ら掘り下げる姿勢があれば十二分に応えてくれる大学です。

TOPICS 都市農業からみる害虫管理の未来

土着天敵を活用する技術を消費者に身近な都市農業で

殺虫剤に依存した防除の歴史は、害虫たちに高度な抵抗性を発達させ、殺虫剤だけでは防除できない害虫の増加をもたらしました。これからの農業では、被害を抑えながら害虫と上手に付き合っていくための新たな発想と技術が必要です。そこで注目されるのが、生態系の機能をいかした害虫管理です。圃場の周辺には「土着天敵」が生息しているため、彼らの力を上手に借りて害虫の被害を抑えることが可能です（写真左）。近年は、天敵の隠れ家となる温存植物や、天敵に影響の少ない殺虫剤を活用する生産現場も増えてきています（写真右）。こうした取り組みを消費者が知り、求めるようになれば、害虫管理の未来は大きく変わるはずです。土着天敵の姿は都市部の生産緑地でも見ることができます。「応用昆虫学研究室」では、消費者に身近な都市農業で土着天敵を活用する技術の開発と普及を目指しています。（糸山 享 准教授）

ヒメハナカメムシ類は有効な土着天敵。

栽培施設内に植栽された天敵温存植物。

DATAでわかる農学科

在籍状況（2018年4月1日現在）

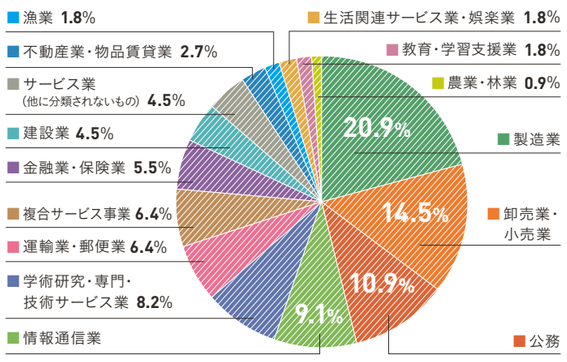
	男子	女子	男女
1年	82（54%）名	70（46%）名	152名
2年	78（63%）名	45（37%）名	123名
3年	71（60%）名	48（40%）名	119名
4年	79（61%）名	50（39%）名	129名
合計	310（59%）名	213（41%）名	523名

研究室状況（2018年4月1日現在）

研究室数	平均所属学生数	研究室所属率
21	10.5 人	88.7%

2017年度進路状況

2017年度就職実績



主な就職先（大学院生を含む）

・東京特別区	・富士ソフト（株）	・国家公務員　一般職
・（株）小田急ランドフローラ	・（株）富士通エフサス	・東日本旅客鉄道（株）
・国家公務員　総合職	・マルハニチロ（株）	・丸紅（株）
・シミックホールディングス（株）	・赤城乳業（株）	・（株）Mizkan J plus Holdings
・全国農業協同組合連合会	・池田糖化工業（株）	・理研ビタミン（株）
・千葉県庁	・カゴメ（株）	・（株）ロッテ
・（株）日比谷アメニス	・カネコ種苗（株）	

［ 農学科の教育・研究スタッフ ］

生産システム学研究室

現場で使える技術・情報を考える

池田 敬 教授／博士（農学）

生産現場で発生するさまざまな問題を解決するために、技術開発と基礎研究を結びつけた研究を行っています。

果樹園芸学研究室

多様な果実の安定供給法の確立

岩崎 直人 教授／農学博士

地球環境の変動が各種果樹の生産性におよぼす影響について解析し、持続可能な新しい生産体系の確立に取り組んでいます。

応用植物生態学研究室

里山と里川の生物多様性を守る

倉本 宣 教授／博士（農学）

現代は大量絶滅の時代です。里山における人と自然との関係を取り戻すことを通して、生物多様性を回復していこうとしています。

動物生産学研究室

アニマルサイエンスを学ぼう

纐纈 雄三 教授／Ph.D.

豚や牛の繁殖問題、犬や猫のアトピー性皮膚炎や肥満問題、お肉や卵やチーズのおいしい食べ方を学生とともに勉強しています。

土地資源学研究室

熱くならなきゃ、研究じゃない！

登尾 浩助 教授／Ph.D.

土壌中と接地気層中の物質とエネルギー循環に関する研究を通して、環境と食料生産の維持に貢献できる人材を育成しています。

花卉園芸学研究室

花の魅力を引き出そう

半田 高 教授／農学博士

起源種が不明な品種・系統の由来を明らかにするとともに、新しい遺伝資源や形質（花の香り等）の利用を考えて研究しています。

植物育種学研究室

細胞の死から植物の生を考える

丸橋 亘 教授／農学博士

植物の生を適切に保つうえで重要な役割を果たすプログラム細胞死について研究し、植物育種に役立つ技術の開発を目指しています。

応用昆虫学研究室

環境と人にやさしい害虫管理へ

糸山 享 准教授／博士（農学）

害虫や天敵昆虫の生理・生態的な特性を多面的に解析し、農薬だけに頼らない効果的かつ効率的な防除技術の開発を目指しています。

植物病理学研究室

病気に負けない植物を創る

大里 修一 准教授／博士（農学）

植物の病気を分子レベルで解き明かし、先端バイオ技術を駆使して病気に強い植物を生み出すための基礎研究を行っています。

環境デザイン研究室

生活空間のあるべき姿を追究

菅野 博貴 准教授／博士（工学）

戦後、常に経済最優先で形成されてきた日本の都市や農村の空間について、将来の質的転換をはかる方策について追究しています。

水資源学研究室

水の世紀を生きる

小島 信彦 准教授／博士（農学）

環境に配慮した操作や管理が容易で省エネルギーな水利施設の開発や水を適切に利用するためのシステムの確立を追究しています。

地域環境計画研究室

人と空間の問題を考える

服部 俊宏 准教授／博士（農学）

農地を中心とした空間管理とそれを支える人の問題を追究します。地域が健やかであること、豊かであること、持続的であることが目標です。

動物遺伝資源学研究室

動物遺伝の可能性を引き出す

溝口 康 准教授／博士（農学）

ウシ・ブタ・イノシシなどを対象とした動物遺伝学的研究を行い、資源・生産・保全分野への貢献を目指します。

野菜園芸学研究室

現場直結型の技術確立

元木 悟 准教授／博士（農学）

野菜類の生理・生態の解明とともに、野菜の生産現場を意識した安定生産技術および作型の開発を目指しています。

動物環境学研究室

ヒトと動物の幸せな環境を

川口 真以子 専任講師／博士（医学）

化学物質や養育方法等の環境因子が動物へおよぼす影響について研究し、動物福祉や生産性の向上へ寄与することを目指しています。

作物学研究室

作物の潜在的な生産能力を高める

塩津 文隆 専任講師／博士（農学）

作物の潜在的生産能力に対する生理・生態学的な特性を解明し、持続的・安定生産が可能な栽培技術の開発を目指しています。

植物線虫学研究室

植物寄生線虫病に関する基礎・応用研究

新屋 良治 専任講師／博士（農学）

農林業に被害をもたらす寄生線虫病の制御手法開発を念頭に置き、線虫の寄生・生殖・行動の解明とその進化プロセスの研究をしています。

環境気象学研究室

気候変動が農業へ及ぼす影響の解明と対策

矢﨑 友嗣 専任講師／博士（農学）

農地や緑地の気象環境、および作物（植物）との関係を解明し対策を考えることで、持続可能な農業や生活環境の実現を目指します。

遺伝子工学

植物病原菌の進化に迫る

前田 一行 助教／博士（農学）

植物病原菌がもつ発病因子の機能と進化に分子レベルから迫り、植物の病気を未然に防ぐことを目指しています。

※研究者は退職等により変更となる場合があります。　※研究室入室にあたっては選抜試験が実施される場合があります。

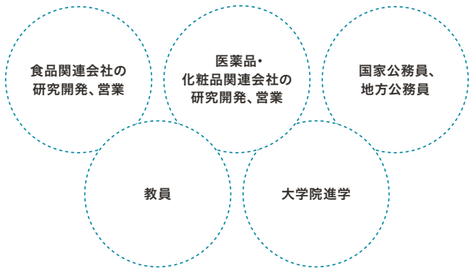
▶農芸化学科 Department of Agricultural Chemistry

人間生活に密着したバイオサイエンスを学ぶ

農芸化学科では、私たちの生活に関わりの深い食品や環境分野の問題を、バイオテクノロジーと最新のサイエンスによって解決することを目指しています。微生物を用いた環境にやさしい技術の開発、おいしくて健康に良い食品の研究開発、植物生産や環境の資源である土壌の研究、動植物や微生物が生産する有用物質の検索など、農芸化学のフィールドには多くの重要な研究テーマがあります。

こうした分野で社会に貢献できる人材を育てるために、農芸化学科では豊富な実験・実習（1・2年次）と2年間かけて取り組む卒業研究（3・4年次）をカリキュラムの中心にすえています。バイオサイエンスの基礎知識と実験技術をもつ卒業生は、食品・医薬・化学などの幅広い分野で活躍しています。

目指す将来イメージ



教員からのメッセージ

化学と生物の力で食と農の課題に挑む

ケミカルバイオロジー研究室
久城 哲夫 准教授

人類は太古より食糧や医薬品、材料などをほかの生物に頼って生きてきました。農芸化学科では、その元となる生物の生命現象をとことん解明していくとともに、得られた成果をさらに人間生活に応用していくことを目指しています。研究対象は動物、植物、微生物、土壌、食品と多岐にわたり、また基礎的な学問と応用的な学問の両方を探求することができる点が特色であります。カリキュラムでは、まず農芸化学の基礎となる有機化学、生化学、分子生物学、微生物学をしっかりと学んだ後に、専門分野の科目を学ぶとともに3年次より研究室に所属し、卒業研究を行います。最新のバイオテクノロジーを駆使し、生命の神秘を解き明かしていく研究は心躍る経験です。農芸化学科での課程を修了した後には、自信をもって社会で活躍できるあなたがいるはずです。

［ 学科主要科目 ］

▼基礎科目群

必修

1年次 春学期	1年次 秋学期	2年次 春学期	2年次 秋学期
有機化学Ⅰ(2) 生化学Ⅰ(2) 微生物学Ⅰ(2)	有機化学Ⅱ(2) 生化学Ⅱ(2) 微生物学Ⅱ(2) 基礎分子生物学(2)	環境科学(2) 分析化学(2) 分子生物学(2) 植物栄養学(2) 物理化学(2)	有機分析化学(2) 食品化学(2) 土壌化学(2) 栄養科学(2)

選択

1年次 春学期	1年次 秋学期	2年次 春学期	2年次 秋学期
農芸化学(2) 地学概論(2) 化学(2) アグリサイエンス論(2) 農場実習(1) 化学実験(1)	化学(2) フィールド先端農学(2)	細胞生物学(2) 基礎生物統計学(2) 物理学(力学・熱力学)(2) 物理学実験(1)	バイオテクノロジー概論(2) 物理学(電磁気学・光学)(2) 数学概論(2)

▼専攻科目群

選択

1年次 春学期	1年次 秋学期	2年次 春学期	2年次 秋学期	3年次 春学期	3年次 秋学期
微生物学実験(1)	生化学・物理化学実験(2) 環境化学実験(1)	有機化学・有機分析実験(2) 環境分析実験(1)	食品化学・食品分析実験(1) バイオテクノロジー実験(1) 植物栄養学(2) 食品衛生学(2) 微生物生理学(2)	英語農学Ⅰ(2)	英語農学Ⅱ(2)

3年次

食品分野 春学期	食品分野 秋学期	生物機能分野 春学期	生物機能分野 秋学期	環境分野 春学期	環境分野 秋学期
食品生化学(2) 食品機能化学(2) 発酵食品学(2) 食品工学(2) 栄養生化学(2)	食品物性学(2)	天然物有機化学(2) 応用生化学(2)	生物機能化学(2) 生物物理学(2) ケミカルバイオロジー(2)	土壌圏科学(2) 微生物生態学(2) 微生物遺伝学(2)	環境分析化学(2) 植物環境制御学(2) 微生物化学(2) 環境バイオテクノロジー(2)

3・4年次

食品分野 春学期	食品分野 秋学期	生物機能分野 春学期	生物機能分野 秋学期	環境分野 春学期	環境分野 秋学期
食品免疫学(2) 水産資源化学(2) 食品健康科学(2)	動物資源化学(2) 食品冷凍冷蔵学(2) 食品安全学(2)	農薬化学(2) 有機合成化学(2) 生命システム工学(2)	高分子化学(2) 応用微生物学(2)	バイオマス資源循環論(2) 環境化学(2)	環境微生物学(2) 土壌環境保全学(2)

▼卒論関係科目群

選択

3・4年次履修
文献調査(4)・特別研究(卒論)(4)

※カリキュラムが変更となる場合があります。 ※( )内は単位数。

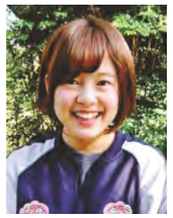
詳しくはホームページへ。 http://www.meiji.ac.jp/agri/department/agri_chemi/cr_nobake.html

[農芸化学科の4年間の学び]

1年次 → 2年次 → 3年次 → 4年次

1年次

農芸化学の基礎にふれる



農芸化学科1年
田中 響
北海道札幌南高等学校卒業

1年次は基礎を固めることが大切です。農芸化学の基本について多くの必修科目が用意されているため、たくさんの知識が身につきます。また学生実験が多くあり、微生物・環境・食品などさまざまな分野の実験を行うことができるのが特長です。勉強も実験も効率よく行わなければなりませんが、実験が多いからこそ友達と協力し仲が深まる、というのも農芸化学科の良いところです！

〈 時間割の例(1年次) 〉　上段：春学期、下段：秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	スポーツ実習Ⅰ	–	有機化学Ⅰ 有機化学Ⅱ	微生物学Ⅰ 微生物学Ⅱ	ICTベーシックⅠ	スペイン語Ⅰa スペイン語Ⅰb
2	健康科学 スポーツ実習Ⅱ	日本の歴史A	–	英語Ⅰa 英語Ⅰb	生化学Ⅰ	スペイン語Ⅱa スペイン語Ⅱb
3	生物学基礎 生化学・物理化学実験	微生物学実験 生化学・物理化学実験	化学実験（農場実習） 環境化学実験	生命科学初歩概説 生化学Ⅱ	科学英語	–
4	生化学・物理化学実験	微生物学実験 生化学・物理化学実験	化学実験（農場実習） 環境化学実験	English Communication IA English Communication IB	–	–
5	–	–	社会学	–	農芸化学	–

2年次

自己成長が止められない

農芸化学科2年
菅 駿太
神奈川県立市ケ尾高等学校卒業

農芸化学科では自分がレベルアップするための階段がしっかりしています。1年次に農芸化学の基礎を幅広く学び、2年次ではそれをさらに深く掘り下げます。熱心な先生方のおかげで最初は難しくて理解できなかった分野も気がつけば大好きな分野に変わっていました。毎日新たな知識との出会いに喜びを感じ、日々自己成長を感じられる環境が整っています。

〈 時間割の例(2年次) 〉　上段：春学期、下段：秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	生物学基礎	物理学（電磁気学・光学）	–	–	環境科学 土壌化学	–
2	分析化学 食品化学	分子生物学 栄養化学	英語Ⅱa 英語Ⅱb	物理化学	心理学A 心理学B	–
3	有機化学・有機分析実験 スポーツ実習Ⅱ	有機化学・有機分析実験 バイオテクノロジー実験	環境分析実験 食品化学・食品分析実験	英語コミュニケーション	生命倫理学 日本語表現B	–
4	有機化学・有機分析実験 環境学入門	有機化学・有機分析実験 バイオテクノロジー実験	環境分析実験 食品化学・食品分析実験	数学基礎	共通総合講座Ⅰ（明治大学の歴史Ⅰ）	–
5	–	–	法学 日本国憲法	–	–	–

3年次

本当に自分が学びたいことを

農芸化学科3年
近藤 恭史
熊本県立第二高等学校卒業

農芸化学科では、食品、微生物、環境など幅広い分野を学ぶことができ、3年次は研究室に所属することで自身が学びたいことを専門的に学ぶことができます。研究室では、1・2年次の学生実験で学んだことをいかしながら、自身で研究計画を立て主体的に活動を行っていきます。また、研究室には同じ志をもつ仲間が集まっているので、高いモチベーションで研究に取り組むことができます。

〈 時間割の例(3年次) 〉　上段：春学期、下段：秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	–	農薬化学 食品生化学	食品健康科学 環境微生物学	ゼミ	微生物生態学 植物環境制御学	環境衛生学
2	栄養生化学	食品機能化学 バイオマス資源循環論	発酵食品学 環境分析化学	土壌圏科学 研究活動	研究活動 動物資源化学	研究活動
3	研究活動	–	研究活動	食品衛生学 English Communication IB	研究活動 ゼミ	研究活動
4	研究活動	ゼミ	研究活動	English Communication IA 研究活動	研究活動	研究活動
5	研究活動	ゼミ	研究活動	–	研究活動	–

4年次

4年間の集大成を仲間と

農芸化学科4年
長﨑 千尋
高知県私立高知学芸高等学校卒業

私は3年次までに授業を履修し終えたので、4年次では卒業研究が中心となりました。卒業研究は自分自身のものですので、主体性やスケジュール管理能力が必要です。しかし、実験に失敗はつきものですし、計画通りにいかないことも多々あります。ですが研究室には同じように頑張る仲間がいます。ぜひ仲間と切磋琢磨し、支え合いながら自分の興味のある分野について精一杯学んでください。

〈 時間割の例(4年次) 〉　上段：春学期、下段：秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究
2						
3	ゼミ					
4						
5	卒業研究					

授業REPORT 微生物学Ⅰ

身近な微生物を知ろう

微生物は農芸化学の実験で利用されることが多く、私たちの生活において色々なところに存在しています。学生実験を行う際にも微生物の取り扱い方法を知っておくことが必要です。この授業では微生物の生態や分類のほかに、食品や医療への利用についても学びます。先生が行っている研究についてのお話も聞けるので、新しい発見をしながら知識を深めることができるでしょう。

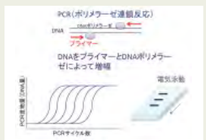
担当教員より
佐々木 泰子
准教授

「微生物学」は大学になって初めて出会う科目です。私達は目に見えない微生物を「発酵食品・医薬品製造・環境浄化」に利用し、また「腸内細菌」として微生物は私たちと共生しています。微生物同士は「会話」もしています。微生物を知ることで新しい世界と出会ってください。

授業REPORT 分子生物学

生命活動の合理性を知る

この講義では、生物の細胞以下のレベルでの生命活動を知ることができます。自分の無意識のうちに体はものすごく効率よく転写や翻訳などを行っていることを知ることができます。実はこの分野は医療以外にも食品や農業にも深く関わっています。また話を聞くだけの授業ではなく、まず"考える"が中心の授業なので、主体性をもって授業に集中することができました。



担当教員より
小山内 崇
専任講師

遺伝子に関する知識は、あらゆる分野の基盤となります。食品を扱う場合も遺伝子組換えの知識は必須ですし、環境問題においても遺伝子組換え生物の拡散が問題視されています。これらの諸問題について、科学的・論理的に考えることができるように基礎知識を身につけて欲しいと考えています。

研究室REPORT 土壌圏科学研究室

土の新しい価値を発見する

「土壌圏科学研究室」では、土壌汚染を植物や一般廃棄物から生成される副産物を用いて改善していく方法や家畜ふん堆肥などの未利用資源を用いて食糧増産する方法を研究しています。私たちが直面しているさまざまな問題について今まで実際の現場で用いられなかった新しい方法を発見できるので、目に見える形で社会に還元できるということも実感することができ、とても充実しています。

担当教員より
加藤 雅彦
専任講師

存在が当たり前すぎる「土壌」といわれると何をイメージしますか？土壌は、地球環境を構成する重要な要素で有限な"資源"です。健全な土壌がなければ、我々に必要な食糧も生産できないためです。土壌中での養分や有害物質の挙動を研究し、都市土壌環境保全と資源最小投入による食糧生産の両立を目指しています。

研究室REPORT 食品衛生学研究室

機能性成分で健康に

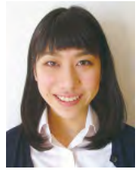
食品衛生学研究室では、大きく分けて2つのテーマを扱っています。1つ目はポリフェノールによる肥満抑制の検討、2つ目は酸化コレステロールの有害作用の防止策の検討です。これらのテーマでは脂質代謝に注目し、動物実験、細胞実験、タンパク質解析、RNA解析などを行うことで、それぞれの成分による機能や有害作用の機序を明らかにしています。

担当教員より
長田 恭一
教授

近年の健康に対する関心の高まり等を背景に、健康維持・増進に役立つ食品としてさまざまな特定保健用食品や機能性表示食品が開発されています。食品衛生学研究室では脂質代謝調節機能や抗酸化機能を示す食品成分を未利用資源から見出し、その安全性や機能性のメカニズムを調べています。廃棄されてしまうような未利用資源の中には健康を守るかもしれない成分が含まれていることが多々あります。さまざまな食素材にぜひ興味をもってみてください。

卒業生からのメッセージ

たくさん学んで やりたいことを見つけよう



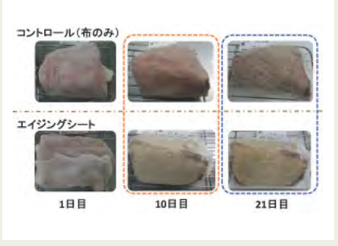
2017年
農芸化学科卒業
山田 夏帆
株式会社いなげや勤務
横浜綱島店惣菜担当

農芸化学科は、私たちの生活と深く結びついた幅広い分野を学ぶことができる学科です。その分1・2年次での必修科目や実験が多く苦労しましたが、仲間と助け合いながらしっかりと基礎力を身につけることができました。私はたくさんの講義や実験を通じて、入学当初と研究室に配属される3年次の頃とでは異なる分野に興味をもつようになっていて、自分のやりたいことを多くの側面から考えられる充実した4年間だったと感じています。

TOPICS 農芸化学の社会実装

熟成肉を短期間で安全に製造する

最近「熟成肉」という言葉をネット上やマスコミを通して見聞きすると思いますが、熟成肉がどのようにして製造されているか知っていますか？芳（かぐわ）しい香りがする熟成肉は、通常“ドライエイジング法”という製法で製造されています。“ドライエイジング法”では、肉を熟成庫という特殊な冷蔵庫内で数カ月保存し、その間に熟成に適した“カビの胞子”が付着し、増殖してくることを利用して熟成を進めています。しかし熟成が長期にわたることは、腐敗菌の増殖するリスクや生産コストの増加につながります。そこで熟成期間を短縮化し、腐敗のリスクを低減させるために、熟成に優良な菌株の胞子を布に付着させた「エイジングシート」を開発しました。「エイジングシート」で肉を包むと、優良なカビが一気に増殖して肉の表面を覆うため、腐敗菌が付着するリスクを低減させるとともに、約1カ月で熟成肉の製造が可能になりました。
（村上 周一郎 教授）



「エイジングシート」を用いた熟成庫内での熟成試験。「エイジングシート」で肉を包むと、熟成10日目には、優良菌の菌糸が肉の表面を完全に覆っている。

DATAでわかる農芸化学科

在籍状況（2018年4月1日現在）

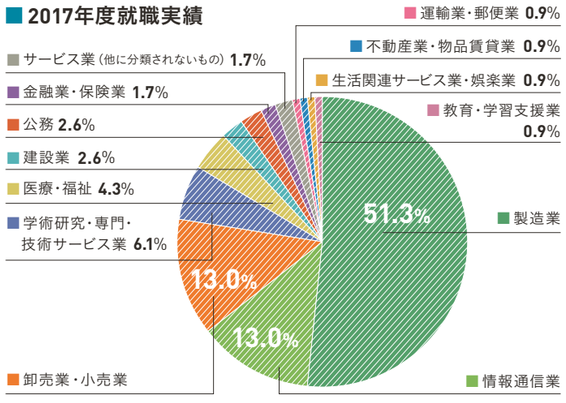
	男子	女子	男女
1年	44（36%）名	78（64%）名	122名
2年	56（40%）名	84（60%）名	140名
3年	59（43%）名	79（57%）名	138名
4年	53（37%）名	91（63%）名	144名
合計	212（39%）名	332（61%）名	544名

研究室状況（2018年4月1日現在）

研究室数	平均所属学生数	研究室所属率
21	12.8人	95.0%

2017年度進路状況

2017年度就職実績



主な就職先（大学院生を含む）

・（一財）日本食品分析センター	・雪印メグミルク（株）	・敷島製パン（株）
・（株）不二家	・理研ビタミン（株）	・武田薬品工業（株）
・井上特殊鋼（株）	・（株）リニカル	・日清オイリオグループ（株）
・キユーピー（株）	・エスビー食品（株）	・日本水産（株）
・TIS（株）	・（株）エヌ・ティ・ティ・データ	・ぺんてる（株）
・（株）中村屋	・国家公務員　一般職	・ミヨシ油脂（株）
・森永乳業（株）	・（株）Jーオイルミルズ	

[農芸化学科の教育・研究スタッフ]

食品衛生学研究室

食品成分の機能性を追究

長田 恭一 教授／博士（農学）

ポリフェノール等の食品成分が有する健康維持増進機能、とくに、脂質代謝調節機能について追究しています。

食品生化学研究室

食品のもつ新しい力

竹中 麻子 教授／博士（農学）

食事から摂る成分が変わると、体にはさまざまな変化が起こります。このメカニズムを研究し、食品の新しい機能を探索しています。

微生物生態学研究室

麹菌の細胞表層タンパク質ハイドロフォービンの機能解析と新素材への応用

中島 春紫 教授／農学博士

麹菌というカビは働き者で食べても安全。麹菌の細胞表層で水を弾く謎のタンパク質の機能の解明と新素材開発を目指しています。

食品工学研究室

おいしさを食品構造から追及

中村 卓 教授／農学博士

タンパク質・多糖類・油脂の食品構造の制御によるおいしさ（食感と風味）のデザインと効率的食品加工を目指します。

微生物遺伝学研究室

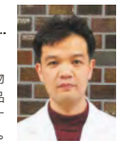
微生物の無限の可能性を信じて

前田 理久 教授／博士（農学）

微生物はすばらしいパワーをもっています。そのパワーのルーツ、仕組みを研究し、環境にやさしい技術の開発に取り組んでいます。

微生物化学研究室

スーパー微生物を探し出そう



村上 周一郎 教授／博士（農学）

当研究室では、自然環境から微生物界のスーパーマンを見つけ出し、食品や環境などさまざまな分野で利用することを目指し、研究を進めています。

環境分析化学研究室

環境ストレスを化学でとらえる

安保 充 准教授／農学博士

環境という見えにくい分析対象を化学的にとらえられるようにするため、ストレス物質だけでなく、生体の環境応答も研究しています。

天然物有機化学研究室

生物間相互作用物質をつきとめる

荒谷 博 准教授／博士（農学）

生物は生合成した多様な化合物を周辺へ放出し、他生物へさまざまな影響を与えています。これらの物質の解明は「宝探し」に似ています。

食品機能化学研究室

味覚の不思議に迫る

石丸 喜朗 准教授／博士（農学）

味蕾や消化管の細胞が食品などを感知する仕組みを明らかにして、健康に良い食品成分を同定することを目指しています。

栄養生化学研究室

「健康」は確かな食生活から

川端 博秋 准教授／農学博士

適切な食事を摂ることは健康な生活を送るための基本です。当研究室では栄養素摂取の過不足による代謝変動の仕組みを研究しています。

ケミカルバイオロジー研究室

生物のもつ物質生産能力に迫る

久城 哲夫 准教授／博士（薬学）

植物や微生物がつくり出す有用成分の生合成と、遺伝暗号の成立に不可欠なアミノアシルtRNA合成酵素の新規機能の探索研究を行っています。

発酵食品学研究室

乳酸菌を科学する

佐々木 泰子 准教授／農学博士

さまざまな発酵食品に利用される乳酸菌の特性と機能の解明、またヨーグルト発酵の共生現象の解明を目指しています。

生物物理学研究室

生物のもつ暗号文解読への挑戦

鈴木 博実 准教授／理学博士

コンピュータを利用して配列（アミノ酸配列・ゲノム配列）と構造・機能との関連性の解明という暗号文解読に挑戦しています。

植物環境制御学研究室

人の生活は植物に支えられている

中林 和重 准教授／農学博士

植物の生育する環境を人為的に制御して高品質で多収穫が可能な生産技術を研究・開発しています。特に光環境と栄養（肥料）環境に重点をおいています。

環境バイオテクノロジー研究室

微細藻類による光と二酸化炭素からのものづくり

小山内 崇 専任講師／博士（農学）

ラン藻などの藻類を用いて、光と二酸化炭素からプラスチック原料や水素などの有用物質および再生可能エネルギーを効果的につくる方法の開発を行っています。

土壌圏科学研究室

土壌化学から食糧生産と都市環境保全へ

加藤 雅彦 専任講師／博士（農学）

土壌は地球環境を構成する重要な要素です。研究室では、目に見えない土壌の中を研究し、都市環境保全や食糧生産など目に見えることに貢献しています。

応用生化学研究室

ゲノム発現制御から細胞システムを理解する

島田 友裕 専任講師／博士（工学）

生命の情報源はゲノムです。そのゲノム情報を利用する仕組みを分子レベルで解明することから、細胞システムの全体像の理解・応用を目指しています。

生物機能化学研究室

植物ホルモンによる植物の成長制御メカニズムの解明

瀬戸 義哉 専任講師／博士（農学）

動くことのできない植物が、ホルモン分子を利用して、環境に適応しながら生きるメカニズムを分子レベルで明らかにします。

化学

広い科学の世界の謎を一緒に解き明かしましょう

佐賀 裕亮 助教／博士（農学）

生物のつくり出す二次代謝物は医農薬品の素材として利用されています。これらが生み出される仕組みを解明し、新たな化合物の創出を目指します。

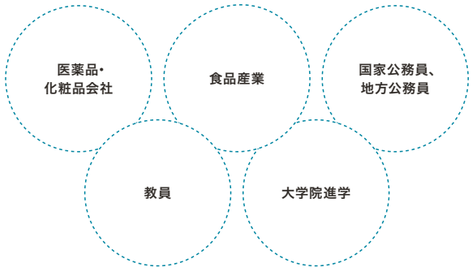
※研究室は退職等により変更となる場合があります。

▶生命科学科 Department of Life Sciences

生命の謎を解明し、人類の未来に貢献する

生命科学科では、動植物や微生物の生命活動を分子レベルや遺伝子レベルから理解することを基盤として、これらを人類が直面している環境や食糧問題などの解決に活用することを目指しています。本学科では、生命科学の分野で専門家として活躍する人材や、生命科学の素養と同時に広い視野と総合的な判断力をもった人材の育成を進めています。こうした目標を達成するために、段階的な学習プログラムを用意しているのも本学科の特長といっていいでしょう。1・2年次は、基礎から専門分野までを体系的に学ぶことができる授業と実験のカリキュラムを組み、3年次からは各自が興味をもった研究室に属して最先端の設備と技術を駆使しながら卒業研究に取り組むことになります。生命の謎に好奇心をもち、生物のもつ能力を人類のために役立てたいと考える、意欲的な学生を歓迎します。

目指す将来イメージ



教員からのメッセージ

持続可能な
社会でいきる
生命科学マインド

動物生理学研究室
中村 孝博 准教授

地球環境の劇的な変化を実生活で感じるようになりました。50年後、100年後の地球はどうなっているのでしょうか？気候変動の抑制は私たちが真剣に取り組むべき最優先課題です。この地球は私たち人間だけのものではありません。多種多様な微生物・動植物が共存し、お互いに助け合いながら生活をしています。生命科学科では、これら生物の生命現象を分子レベルから学習し、その知識を利用して基礎研究や環境保全・食糧生産・健康に応用できる研究を行っています。また、明治大学の建学の精神・教育理念のもと、これからの持続可能な社会で活躍できる農学・生命科学マインドをもったグローバルリーダーの育成に力を入れています。Save our planet! 私たちと一緒に生命科学を学びませんか？

［ 学科主要科目 ］

専門の基礎を学ぶ ▶基礎科目群(フィールドサイエンス科目を含む)　　より深く専門を学ぶ ▶専攻科目群

1年次

春学期	秋学期
生命科学入門(2) 化学要論(2) 動物生命科学(2) 植物生命科学(2) 分子生物学入門(2) 農場実習(1) アグリサイエンス論(2) ICTベーシックⅠ(2) ICTエレメンタリー(2)	細胞生物学(2) 遺伝学(2) 生物有機化学(2) 生化学Ⅰ(生体成分・酵素)(2) 微生物学Ⅰ(2) ICTベーシックⅡ(2) フィールド先端農学(2) インターンシップ(1)

春学期	秋学期
生命科学実験Ⅰ(2)	生命科学実験Ⅱ(2)

2年次

春学期	秋学期
分子生物学(2) 生化学Ⅲ(植物代謝)(2) ICTデータベースⅠ(2) 地学概論(2)	生化学Ⅱ(動物代謝)(2) バイオインフォマティクス入門(2) 数学概論(2) 物理学概論(2) インターンシップ(1)

動物を中心に学ぶ

春学期	秋学期
動物生理学Ⅰ(2) 生体機構学Ⅰ(2) タンパク質科学Ⅰ(2) 微生物学Ⅱ(2) 植物細胞生物学(2) 微生物学Ⅱ(2)	動物生理学Ⅱ(2) 生殖生物学(2) 生体機構学Ⅱ(2) 生体防御学(2) 分子遺伝学(2) 環境応答生物学(2) 動物再生システム学(2)

植物を中心に学ぶ

春学期	秋学期
植物細胞生物学(2) 植物環境生理学(2) タンパク質科学Ⅰ(2) 微生物学Ⅱ(2) 動物生理学Ⅰ(2) 環境応答植物学(2)	植物工学(2) 植物機能制御学(2) 環境応答生物学(2) 分子遺伝学(2) 生体防御学(2) 生殖生物学(2)

微生物を中心に動物、植物共通な事柄を学ぶ

春学期	秋学期
微生物学Ⅱ(2) タンパク質科学Ⅰ(2) 植物細胞生物学(2) 動物生理学Ⅰ(2) 植物環境生理学(2) 環境応答植物学(2)	分子遺伝学(2) 環境応答生物学(2) 生殖生物学(2) 生体防御学(2) 植物工学(2) 動物生理学Ⅱ(2)

春学期	秋学期
生命科学実験Ⅲ(2)	生命科学実験Ⅳ(2)

3年次

春学期	秋学期
物理学実験(1) 地学実験(1) ICT統計解析Ⅰ(2)	ICT統計解析Ⅱ(2) ICTデータベースⅡ(2) インターンシップ(1)

春学期	秋学期
動物栄養学Ⅰ(2) 分子発生学(2) 発生工学(2) 生体制御学(2) 遺伝子工学(2) ゲノム機能工学(2) 細胞情報制御学(2) 生物統計学(2) ウイルス学概論(2) 英語農学Ⅰ(2) バイオインフォマティクス(2)	動物栄養学Ⅱ(2) 生体機能物質学(2) 実験動物学(2) 糖鎖生物学(2) タンパク質科学Ⅱ(2) 生物物理学(2) 英語農学Ⅱ(2)

春学期	秋学期
発生工学(2) 生体制御学(2) 遺伝子工学(2) 分子発生学(2) ゲノム機能工学(2) 細胞情報制御学(2) 生物統計学(2) ウイルス学概論(2) 動物栄養学Ⅰ(2) 英語農学Ⅰ(2) バイオインフォマティクス(2)	植物分子生理学(2) 糖鎖生物学(2) タンパク質科学Ⅱ(2) 生体機能物質学(2) 微生物工学(2) 生物物理学(2) 英語農学Ⅱ(2)

春学期	秋学期
ウイルス学概論(2) 遺伝子工学(2) ゲノム機能工学(2) 細胞情報制御学(2) 発生工学(2) 分子発生学(2) 生体制御学(2) 動物栄養学Ⅰ(2) 生物統計学(2) 英語農学Ⅰ(2) バイオインフォマティクス(2)	微生物工学(2) 糖鎖生物学(2) タンパク質科学Ⅱ(2) 生体機能物質学(2) 植物分子生理学(2) 生物物理学(2) 英語農学Ⅱ(2)

3・4年次履修　▶卒論関係科目群　文献調査・特別研究(4)　文献調査・特別研究(卒論)(4)

生命科学分野の専門家（大学院、研究者）　生命科学分野の基礎知識をもった公務員、企業人、教員等

※カリキュラムが変更となる場合があります。　※(　)内は単位数。

詳しくはホームページへ。　http://www.meiji.ac.jp/agri/department/life_science/cr_life.html

[生命科学科の4年間の学び]

1年次 2年次 3年次 4年次

基礎を育む1年

生命科学科1年
根本 岳忠
茨城県私立茨城高等学校卒業

私は高校で生物を学ぶ中で、分子レベルの目には見えない生物の働きに興味をもち生命科学科を選びました。1年次では基本的にはさまざまな分野の基礎的な内容を学び、2年次以降に学ぶ専門的な生命科学の礎となる知識を習得できます。また、週に4時限分ある実験では、基礎的な科学実験を通して専門分野に進んでから必要になる実験技術を習得し、実際に生命科学を体感することができます。

〈 時間割の例(1年次) 〉 上段：春学期、下段：秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	生物学基礎		–	–	中国語Ia 中国語Ib	–
2	動物生命科学 運動学	中国語IIa 中国語IIb	化学要論 微生物学	ICTベーシックI 生物有機化学	英語Ia 英語Ib	–
3	生命科学実験I 生命科学実験II	スポーツ実習I 遺伝学	宗教の哲学 科学の哲学	English Communication IA English Communication IB	生命科学実験I 生命科学実験II	–
4	生命科学実験I 生命科学実験II	分子生物学入門 細胞生物学	日本国憲法 法学	–	生命科学実験I 生命科学実験II	–
5	–	生化学I（生体成分・酵素）	–	–	–	–

好奇心を刺激する

生命科学科2年
高瀬 仁美
栃木県私立宇都宮文星女子高等学校卒業

2年次からは、基礎分野とともに専門的な分野も学んでいきます。講義の選択の仕方で、動物・植物・微生物の中から自分の興味対象を中心に幅広く学ぶことができます。生命現象のメカニズムをより深く知ることで、好奇心が刺激され、新たなことに興味が湧いてきます。将来の選択肢を広げられることは生命科学科の魅力です。3年次の研究室選びでも、自分のやりたいことを見つけられます。

〈 時間割の例(2年次) 〉 上段：春学期、下段：秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	分子生物学	植物細胞生物学	英語IIa 英語IIb	分子遺伝学	植物工学	–
2	バイオインフォマティクス入門	生体防御学	微生物学II	植物環境生理学 植物機能制御学	生体機構学I 生体機構学II	–
3	タンパク質科学I	生命科学実験III 生命科学実験IV	生命科学実験III 生命科学実験IV	動物生理学I 動物生理学II	英語III	–
4	生化学II（動物代謝）	生命科学実験III 生命科学実験IV	生命科学実験III 生命科学実験IV	生化学III（植物代謝）	環境応答生物学	–
5	–	–	生殖生物学	–	–	–

基礎力をいかした専門分野の追求

生命科学科3年
古川 洸
神奈川県立西湘高等学校卒業

3年次は2年次に比べ専門的な授業が多くなり、さらに研究室に所属することで、自分が興味をもった分野を中心的に学ぶことができます。研究室では、1・2年次に学んだことをいかして実験を進めていき、知識を得るだけでなく、自ら考えて行動する機会が多くなります。実験や講義などすべきことが多いですが、とても有意義な時間を過ごせます。

〈 時間割の例(3年次) 〉 上段：春学期、下段：秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	–	–	–	ウイルス学概論 生体機能物質学	卒業研究	–
2	遺伝子工学 植物成長制御学	環境応答植物学	植物ウイルス学	細胞情報制御学 植物分子生理学		生物統計学
3	分子発生学 生物学基礎	生体制御学	ゼミ	ゲノム機能工学 基礎生化学	アグリサイエンス論 フィールド先端農学	卒業研究
4	卒業研究	ゼミ	卒業研究	数学基礎	共通総合講座I（明治大学の歴史I）	
5		卒業研究		卒業研究	共通総合講座II（キャリア形成支援講座I）	–

研究に熱中できる環境

生命科学科4年
関口 陽香
埼玉県立浦和第一女子高等学校卒業

私は生命の中で起こっている現象に興味をもち生命科学科に進みました。これまでに学んだ知識をもとに、4年次では主に卒業研究に取り組んでいます。3年次とは異なり自分で実験の計画を立てたり、実験方法から自分で考えたりすることが多くなります。計画通り実験が進まないこともあり、まだまだ学ぶべきことも多いですが、研究室の仲間に力を借りながら研究に勤しんでいます。

〈 時間割の例(4年次) 〉 上段：春学期、下段：秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	卒業研究	卒業研究	ゼミ	卒業研究	卒業研究	卒業研究
2		朝鮮語IA	卒業研究			
3		朝鮮語IB				
4	ドイツ語III	卒業研究				
5	ドイツ語III 卒業研究					

授業REPORT 動物生命科学

発生の基礎を学ぶ

多細胞生物でひとつの細胞から多細胞になっていく過程は将来の形態形成においてとても重要になります。この授業ではその過程を主に外部の情報をもとに細胞がどのようにプログラムを変化させながら分化していくかということを最新の研究等も交えながら学ぶことができます。最新の研究も交えながら授業をしてくださるので、これからどのような研究がされるのかなどを知りながら学ぶことができます。

※写真はマウス肝のSfyl遺伝子の発現を染色したもの

担当教員より
乾 雅史
専任講師

個体発生は多様な細胞が互いに制御し合うことで複雑な構造をつくり上げる過程です。この講義ではこの細胞のコミュニケーションの方法であるシグナル伝達とその発生における役割について理解することを目標にしています。

授業REPORT 生体防御学

自分を守る

生物には、外部から侵入した病原体や異物に対抗する複雑な免疫システムが備わっています。特に高等生物ほど、非自己物質や体内の異常を感知し、排除する高度な仕組みを獲得してきました。このような免疫についての知識は、感染症やがんの治療、輸血、臓器移植など、医療の現場で活用されています。「生体防御学」では、私たちの健康について考えるうえで必要な知識を学んでいます。

担当教員より
河野 菜摘子
専任講師

私たちが生活の中で「免疫」を感じるのは病気や怪我をした時です。しかし食事・妊娠・がん等、さまざまな現象に免疫は関与していて、免疫は苦手だからと避けては通れません。授業では身近な免疫の理解を目指しています。

研究室REPORT 植物細胞工学研究室

病原体に負けない植物を

植物の病気の原因には、菌類や細菌、ウイルスの感染があげられます。これらの病原体の感染・増殖メカニズムを解析することが、耐性植物の作出には不可欠です。本研究室では、イネの病害菌であるイネいもち病菌をモデルにした糸状菌のゲノム編集技術の構築や植物ウイルスの感染・増殖機構の解析を行っています。またゲノム編集技術を用いたウイルス耐性植物の作出にも取り組んでいます。

担当教員より
桑田 茂
教授

植物に感染するウイルスや糸状菌に対して抵抗性をもつ植物をつくり上げるために、病原体の遺伝子機能解析を行っている研究室です。その研究の中から病原体の弱点を見つけ出して、ゲノム編集技術を利用して植物を改良する研究に学生はチャレンジしています。

研究室REPORT 生体機能物質学研究室

糖尿病合併症の原因を探る

お肉を焼くと茶色くなりいい匂いがしてきます。この時、お肉の糖分とアミノ酸から、茶色い成分や香りの成分ができる反応（メイラード反応）が起きています。糖尿病患者の体内でもこのメイラード反応が起きており、糖化タンパク質（AGE）が組織に蓄積して合併症を引き起こします。本研究室では糖尿病合併症発症機構を解明するために、さまざまなAGEの解析や、生体内での機能を調べています。

担当教員より
渡辺 寛人
教授

農学部でも健康に関する研究が盛んに行われています。たとえば、さまざまな生体機能の「しくみ」を研究することは、それらの不調が原因となる疾病の発症機構の解明、予防・治療法の開発につながると期待されます。

卒業生からのメッセージ

最先端のバイオテクノロジーを学ぶ

2015年
生命科学科卒業
川野 汐音
特許庁審査第一部自然資源動務

私は現在、農林水産技術についての特許審査をしています。機能性野菜や遺伝子組み換え作物、ブランド魚など、農林水産業においても遺伝子・分子レベルの視点の重要性が高まっており、大学で学んだことが仕事でいかされています。また、2年間の卒業研究では、最先端の研究に取り組み、試行錯誤する力を身につけることができました。生命科学科では、専門知識だけではなく、社会で働くうえで必要となる力も身につけることができます。

TOPICS 植物の巧みな生存戦略をミクロの視点で探る

自らを食べる！？

植物は一度大地に芽生えると動くことができないため、過酷な環境から逃れることができず、常にストレスに晒されています。したがって、刻々と変化する外部環境に適切に対処して克服しなければ生き延びることができません。「環境応答生物学研究室」では、その対処機構のひとつとして“オートファジー”に注目して研究を行っています。オートファジーは、オートファゴソームと呼ばれる小胞を介して自身の細胞質成分を液胞/リソソームに輸送して分解する細胞内分解機構のひとつです。私たちは、植物がオートファジー不能になると栄養が十分与えられていても早く枯れてしまうことや、異常なペルオキシソームがたくさん蓄積することを見い出しました。つまり、オートファジーによって自身を食べることで植物の寿命を長くしたり、オルガネラの品質管理をしたりしていると考えられます。しかし、どのようにして寿命に貢献しているのか、どのように異常オルガネラを選択的に捉えるのかの機構はいまだ謎です。このような未知なる植物の謎を最先端の研究施設で解き明かしてみませんか？（吉本 光希 准教授）

植物の写真：オートファジー不能植物は栄養が十分与えられていても早く枯れる。
電子顕微鏡写真:オートファジー不能植物の葉には機能不全となったタンパク質の凝集体（黒い部分）が蓄積した異常ペルオキシソームが多数蓄積する。黒い部分はオートファゴソーム前駆体によって選択的に認識され捉えられているが、その機構は謎。白線＝500nm（1mmの2000分の1の長さ）

DATAでわかる生命科学科

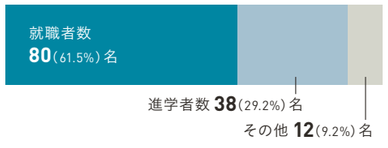
在籍状況（2018年4月1日現在）

	男子	女子	男女
1年	80（54%）名	69（46%）名	149名
2年	63（54%）名	54（46%）名	117名
3年	66（55%）名	54（45%）名	120名
4年	94（57%）名	70（43%）名	164名
合計	303（55%）名	247（45%）名	550名

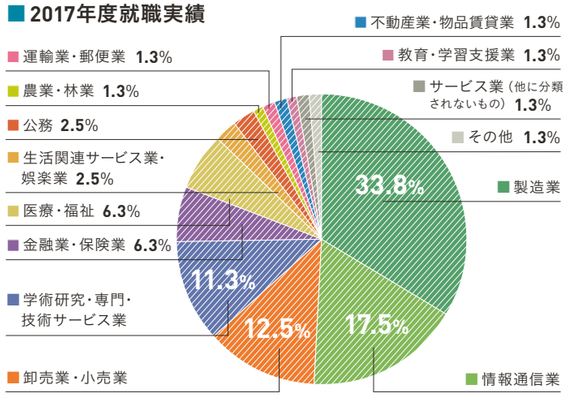
研究室状況（2018年4月1日現在）

研究室数	平均所属学生数	研究室所属率
21	12.5人	92.3%

2017年度進路状況



2017年度就職実績



主な就職先（大学院生を含む）

・大塚製薬（株）	・（株）伊藤園	・（株）ニチレイフーズ
・第一屋製パン（株）	・オルガノ（株）	・日清オイリオグループ（株）
・富士ソフト（株）	・カゴメ（株）	・日本郵政グループ
・森永乳業（株）	・栗田工業（株）	・（株）ファンケル
・ヤマザキビスケット（株）	・小林製薬（株）	・（株）明治
・楽天（株）	・シミックホールディングス（株）	・山崎製パン（株）
・（株）アルビオン	・信越化学工業（株）	

[生命科学科の教育・研究スタッフ]

環境応答植物学研究室

植物の“生きる”知恵を探る

賀来 華江 教授／学術博士

植物の外敵識別機構およびその情報シグナル伝達系の解明を目指し、地球環境にやさしい作物の開発の基礎研究に貢献します。

植物分子生理学研究室

温度は植物成長のシグナル

川上 直人 教授／農学博士

種子の発芽や花の形成は温度に左右されます。温度を感知して成長を制御する仕組みを明らかにし、気候変動への対応を考えます。

植物細胞工学研究室

植物を強くする

桑田 茂 教授／農学博士

植物を侵す病原体のひとつである植物ウイルスの遺伝子解析と遺伝子組換えによるウイルス抵抗性作物の研究を行っています。

細胞情報制御学研究室

体の機能を調節する新たな仕組みを探る

戸村 秀明 教授／理学博士

動物に備わる新たな生体調節機能の解明を目指し、ホルモンを代表とする生理活性物質に対する受容体を介した情報伝達系を解析しています。

発生工学研究室

生殖と再生医学を発生工学で結ぶ

長嶋 比呂志 教授／農学博士

体細胞クローニングやトランスジェニック動物の作出を通じて、再生・移植・生殖医療や動物資源保存に役立つ研究を行います。

微生物工学研究室

多様な微生物の新しい機能を探る

浜本 牧子 教授／農学博士

海洋酵母（新たな遺伝資源）の健康や環境への活用と分裂酵母（有用モデル生物）の新規機能遺伝子の機能解明を目指しています。

生体機構学研究室

よく学び、よく遊ぼう

針谷 敏夫 教授／農学博士

体の中の構造やそこで行われていることは非常に複雑怪奇です。価値ある数多くの難問に果敢に挑戦しています。

バイオインフォマティクス研究室

大規模オミックス情報の最大活用

矢野 健太郎 教授／博士（農学）

ゲノムや遺伝子発現、代謝、表現型などのオミックス情報をコンピュータ解析し、有用な遺伝子や化合物の探索を行っています。

分子発生学研究室

動物細胞の運命を分子レベルで探る

吉田 健一 教授／博士（医学）

核酸やタンパク質といった有機分子が、動物の発生をいかに制御しているのか、細胞の分化・増殖機構に注目して研究しています。

生体機能物質学研究室

疾病の原因となる生体内化学反応

渡辺 寛人 教授／博士（農学）

生体内に蓄積するアミノカルボニル反応生成物の生理作用を研究し、糖尿病合併症発症機構の一端を解明することを目指しています。

動物栄養学研究室

微生物のちからでキレイに健康に

浅沼 成人 准教授／博士（農学）

バイオテクノロジーを駆使して有益な微生物を作出し、①健康と美容、②環境問題、③食糧生産に役立てる研究を行っています。

ゲノム機能工学研究室

細胞・体の個性を決めるエピジェネティクス

大鐘 潤 准教授／博士（農学）

機能性RNA等を利用したエピジェネティック改変により動物のゲノム機能を人為的に調節し、有用細胞・家畜や病態モデル動物の作出を目指します。

プロテオミクス研究室

プロテオミクスから探る生命科学

紀藤 圭治 准教授／博士（理学）

タンパク質の系統的解析から生命現象を探るプロテオミクス研究に、質量分析を用いた独自の解析手法を駆使して取り組んでいます。

植物発生制御学研究室

植物細胞が働くしくみを理解する

田中 博和 准教授／博士（農学）

植物の形態形成と細胞機能を支えるしくみについて、タンパク質の配置の制御に注目して研究しています。

動物生理学研究室

からだのリズムを知って活用する

中村 孝博 准教授／博士（農学）

体内時計の仕組みを解明し、生体機能の日内変動に即した最適な投薬・給餌時刻を見つけ、医療・農業への貢献を目指しています。

環境応答生物学研究室

植物の高次生命現象を分子・オルガネラレベルで解き明かす

吉本 光希 准教授／博士（食品栄養学）

植物の環境適応における細胞内自己分解系（主にオートファジー）の重要性を、多角的なアプローチによって明らかにしようとしています。

動物再生システム学研究室

個体の形を決める細胞間のコミュニケーション

乾 雅史 専任講師／博士（理学）

脊椎動物の形態形成について筋骨格系をモデルとして、細胞・組織間コミュニケーションの観点から研究しています。

生体制御学研究室

生命誕生の原理を探る

河野 菜摘子 専任講師／博士（理学）

遺伝子改変マウスを用いて、体内でおこる受精の仕組みを調べています。鍵となる分子を見つけ出し、医療への貢献を目指しています。

植物生命科学

ストリゴラクトンシグナル伝達機構の解析とケミカルバイオロジー

藤 茂雄 助教／博士（農学）

植物ホルモンであるストリゴラクトンのシグナル伝達経路の解明を目指しています。また低分子化合物を使って植物の機能・反応メカニズムを明らかにする新しい手法の開発も行っています。

※研究室は退職等により変更となる場合があります。 ※研究室入室にあたっては選抜試験が実施される場合があります。

生命科学科のホームページはこちらからどうぞ！

http://meiji-lifesci.jp/

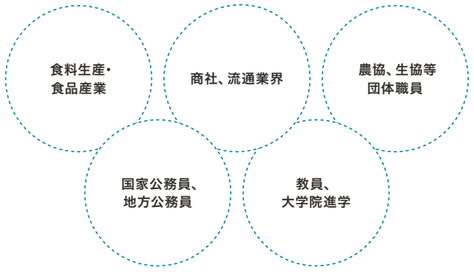
▶食料環境政策学科

Department of Agri-food and Environmental Policy

人類の生存課題を人の行動の観点から考える

21世紀に私たちが生きていくうえで、最も基礎的で重要な「食料」と「環境」をめぐる諸問題について、経済学、社会学、政策学、経営学、会計学、開発学などの社会科学の側面から総合的に考究しています。私たちの生存基盤を担っている生物・生命・自然資源の仕組みを解明し、利用することは人類の持続可能性に欠かせませんが、そこに人間がどう関わっていくべきか、を考えることは重要です。つまり「人類の生存課題を人間の行動の観点から考え、解決方法を探る」のが本学科の学びのテーマといってもいいでしょう。こうした視点をもった人材を育成するために本学科では、さまざまな座学だけでなく、農場実習、ファームステイ実習、フィールドワーク実習、海外農業体験など、現場を体験しながら学べる科目を数多く用意し、応用力・実践力を養うことを重視しています。

目指す将来イメージ



教員からのメッセージ

食料・環境問題を多面的に考えるための接点

環境経済論研究室
廣政 幸生 教授

食料環境政策学科は3つの接点を重視しています。1つめは自然科学と社会科学の接点です。「食と農」「環境と資源」というテーマを、農学の社会科学分野という特色をいかして、研究・教育をします。2つめは現場と大学の接点です。農場実習（1年次）、ファームステイ実習（2年次）、フィールドワーク実習（3年次）では社会を取り巻く実情を知ることができます。3つめは学生と教員の接点です。教員の研究室の隣には学生が自由に使えるゼミ室があり、両者の関係は濃密です。このようなさまざまな接点を通して、課題を自発的に熟考し、行動する。自分自身が大きく成長できる学科です。

［ 学科主要科目 ］

土台をつくる ▶専攻科目基礎科目群

	1年次 春学期	1年次 秋学期	2年次 春学期	2年次 秋学期
必修	食料環境政策学を学ぶ（2） 経済学入門（2）	食料環境政策入門（2）	政治経済学（2）	
選択	基礎ゼミ（2） 農場実習（1） ※フィールドサイエンス科目群	ミクロ経済学（2）	ファームステイ実習（2） 海外農業体験（2） マクロ経済学（2）	プロジェクトゼミ（2）
選択	政策科学入門（2） 農学入門（2）	会計学入門（2） 環境学入門（2）	統計学入門（2） 社会経済史入門（2）	社会学入門（2） 社会調査法入門（2）
選択	経営学入門（2） 英語農学入門（2）	留学認定科目		

ICTスキルを身につける ▶ICT基礎科目

	1年次 春学期	1年次 秋学期	2年次 春学期	2年次 秋学期
選択	ICTエレメンタリー（2）			
選択	ICTベーシックⅠ（2） ICTベーシックⅡ（2） ICT統計解析Ⅰ（2）		ICTデータベースⅠ（2） ICT統計解析Ⅱ（2） ICTデータベースⅡ（2）	

関心を掘り下げる ▶専攻科目Ⅰ

	「食」と「農」の分野 2・3年次 春学期	「食」と「農」の分野 2・3年次 秋学期	「環境」と「資源」の分野 2・3年次 春学期	「環境」と「資源」の分野 2・3年次 秋学期
選択	食料貿易論（2） フードシステム論（2） 食ビジネス論（2） 食料農業社会学（2） 農業政策論（2） 農業マネジメント論（2） 国際農業経済論（2） 国際開発論（2）		環境経済論（2） 資源経済論（2） 環境資源会計論（2） 環境社会学（2） 地域ガバナンス論（2） 共生社会論（2）	
	留学認定科目			

視野を広げる ▶専攻科目Ⅱ

	2〜4年次 春学期	2〜4年次 秋学期
選択	現代社会と食（2）、食生活の科学（2）、 食品ブランド化戦略論（2）、食品マーケティング論（2）、 6次産業化論（2）、食文化と農業ビジネス（2）、 食農メディア論A（2）、食農メディア論B（2）、 農業経営の発展と地域農業（2）、農業史（2）、 アジア農業論（2）、国際比較農政論（2）、 国際食料需給論（2）、国際貿易協定論（2）、 国際協力と国際機関（2）、途上国と一次産品論（2）、 先進国の食と農（2）、途上国の食と農（2）、 農業・環境法（2）、農業・資源問題の経済学（2）、 環境行動経済学（2）、持続可能性の経済学（2）、 持続可能性の会計学（2）、環境問題と地域社会（2）、 内発的発展論（2）、協同組合論（2）、森林・水産政策論（2）、 英語農学Ⅰ（2）、英語農学Ⅱ（2）、インターンシップ（1）	

3・4年次

	春学期	秋学期
選択	食料環境 政策総合 講座（2）	

留学認定科目

アグリサイエンス論（2）、フィールド先端農学（2）
※フィールドサイエンス科目：1〜4年次履修可

教職関係科目の ▶専攻科目群Ⅲ

1〜4年次

選択：職業指導（2）、法律学概論（2）、民法Ⅰ（2）、民法Ⅱ（2）、政治学Ⅰ（2）、政治学Ⅱ（2）、日本史概論（2）、東洋史概論（2）、西洋史概論（2）、地理学概論（2）、地誌学概論（2）、哲学概論（2）、倫理学概論（2）

問題発見・問題解決＝コミュニケーション能力を高める ▶卒論関係科目群

3・4年次

フィールドワーク実習（2）、リサーチゼミ・卒論ゼミ（8） ※3・4年次継続履修

※カリキュラムが変更となる場合があります。※（ ）内は単位数。

詳しくはホームページへ。 http://www.meiji.ac.jp/agri/department/agri_policy/cr_seisaku.html

[食料環境政策学科の4年間の学び]

1年次 → 2年次 → 3年次 → 4年次

農業を多面的に学べる講義が魅力

食料環境政策学科1年
加藤 祐樹
大阪府私立大阪星光学院高等学校卒業

食料環境政策学科は、農学部という理系の学部でありながら唯一文系も入学可能な学科です。1年次の講義の内容は、食料自給率や農産物貿易の問題など社会科学系の講義が多いのですが、一から丁寧に教えていただけるので、理系出身の学生でもわかりやすく、関心をもって講義に臨めます。また、農場実習や基礎ゼミという少人数のゼミナールは、友人と楽しみながらさまざまなことを学べ、大変魅力的な授業です。

〈 時間割の例(1年次) 〉 上段:春学期、下段:秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	食料環境政策学を学ぶ	ICTベーシックI	中国語IIa	–	農場実習	–
		経営学入門	中国語IIb			
2	中国語Ia	スポーツ実習I	経済学入門	基礎ゼミ		–
	中国語Ib	現代倫理学の諸問題	科学英語	社会学入門		
3	生物学基礎	英語Ia		農学入門	–	–
	ミクロ経済学	英語Ib	科学の哲学	政策科学入門		
4		科学英語	会計学入門	数学基礎		–
	環境学入門	健康科学	社会調査法入門		食料環境政策入門	
5	–	–	–	–	–	–

自分の好きなことを学べる

食料環境政策学科2年
藤井 美沙
千葉県立小金高等学校卒業

2年次の特長は、現場に行くこと、自分の興味のある分野が学べること、プロジェクトゼミが挙げられます。ファームステイ実習が実施され、現場の生の声を聞くことができます。私は長野のリンゴ農家さんにお世話になりました。また、2年次では学びたい分野を基礎からしっかり学べます。そして、秋学期からプロジェクトゼミが始まり、3年次のゼミに向けて考える力が養えます。

〈 時間割の例(2年次) 〉 上段:春学期、下段:秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	–	共生社会論	–	英語IIa	–	–
				英語IIb		
2	地域ガバナンス論	海外の食と環境B	政治経済学	農業マネジメント論	–	–
	内発的発展論		農業経営の発展と地域農業	プロジェクトゼミ		
3	環境資源会計論	6次産業化論	国際開発論	生命科学初歩概説		–
	持続可能性の会計学		国際食料需給論		森林・水産政策論	
4	食料貿易論	食ビジネス論	フードシステム論	–	–	–
	国際貿易協定論		現代金融事情			
5	–	–	–	–	–	–

ゼミ活動で議論を積み上げる

食料環境政策学科3年
清水 拓実
長野県飯田高等学校卒業

3年次にはこれまでの基礎知識をいかした、深い学びができます。2年次までと大きく異なるのは議論する場があることです。その中心となるのがゼミです。ゼミは同じ分野に関心をもつ仲間や憧れだった先生と、より近い距離で自由に意見を交わせる、とてもアットホームな場所です。研究室のみでなく、農山村の現場でさまざまな議論を積み上げていく中で、成長を実感することができます。

〈 時間割の例(3年次) 〉 上段:春学期、下段:秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	–	–	–	–	–	–
2	食文化と農業ビジネス	海外の食と環境B	科学英語	農業マネジメント論	心理学A	–
			国際食料需給論		心理学B	
3	地域資源利用論	環境経済論	国際開発論	英語III	農業政策論	–
	アジア農業論		国際食料需給論		森林・水産政策論	
4	ゼミ	–	国際食料安全保障論	「食料環境政策」総合講座	–	–
5		–	–	–	–	–

仲間とともに励む学生最後の研究

食料環境政策学科4年
林 遥加
栃木県立宇都宮女子高等学校卒業

4年次では卒業論文の作成やゼミ活動が中心となります。卒業論文のテーマ設定から調査対象とのやり取り、訪問まですべて自分で行います。卒業論文に「自分らしさ」を出すことは簡単ではありませんが、ディスカッションを通じて研究室の仲間とともに試行錯誤を繰り返しながら進めていくため、やりがいがあります。自分が興味をもったことを自由に研究できることが、食料環境政策学科の特長です。

〈 時間割の例(4年次) 〉 上段:春学期、下段:秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	卒業研究	卒業研究	–	卒業研究	卒業研究	–
2			ゼミ			–
3						–
4			–			–
5			–			–

授業REPORT ミクロ経済学

消費者や企業の行動メカニズムを知る

現代の食と農は大きな曲がり角に直面しています。食と農が抱えるさまざまな問題を考察するためには、消費者、企業や農業者の行動のメカニズムや背景を理解する必要があります。このためのひとつの見方として、ミクロ経済学があります。ミクロ経済学の基礎を学ぶことによって、現代の食と農の問題を考察する能力を養うことが、この授業の目標です。

担当教員より
中嶋 晋作
専任講師

ミクロ経済学の基礎について、主に消費者行動、企業行動に焦点を当てて、できるだけ平易に解説します。経済学の面白さに少しでもふれてもらいたいと思いますが、一方で、食料・農業・農村問題に経済学を適用する際の限界や難しさについても理解して欲しいと考えています。

授業REPORT 国際農業経済論

国際的視点から日本の食料・農業問題を考えてみよう

この講義では、国際的視点から日本の食と農をめぐる諸問題について考えることを主眼点に置いています。グローバル経済の中で、先進資本主義国といわれるわが国の農業経済の特徴は、欧米諸国のそれと共通する側面が多々あります。しかし、その国の自然や風土に依拠する農業(とくに土地利用型農業)では、固有の特徴をもっています。この両者の関連を明らかにしながら、先進諸国の食と農に関わる課題を経済学の視点から勉強します。

担当教員より
石月 義訓
准教授

本講義では、諸外国(特に先進国)の食料・農業問題を学ぶことを通じて、わが国の食料や農業をめぐる課題を考えます。国際的視点を取り入れて、複眼的に日本の食料・農業問題を理解することは現代ではますます重要になっています。

研究室REPORT 地域ガバナンス論研究室

実習を通じて身につく「提言する力」

3年ゼミの最大のイベントは「フィールドワーク実習」です。「農山村再生」をテーマとする地域ガバナンス論研究室では、農山村の集落、NPO、企業組合等を訪ねます。地域の存続のための取り組みの実態やその課題を長時間のインタビューにより聞き取り、それを素材にその地域の再生策を提案します。その「政策提言会」には地域内外から多く住民が参加します。

担当教員より
小田切 徳美
教授

ゼミ活動を通じて、<議論する力>、<現場の声を聞き取る力>、<問題の構図を把握する力>、<再生策を提案する力>を確実に身につけます。ゼミ室のみでなく、農山村の現場に入りこむことにより、その力は飛躍的に磨かれます。

研究室REPORT フードシステム論研究室

共同で磨く独創性

当研究室では、実際に食べ物を飲み食いし、本物の味を確認しながら、食べ物の流通や販売について勉強しています。教科書の輪読に加え、関東地域のさまざまな取り組みを実際に見聞きするために、各地に足を運んでいます。本物で安全な食べ物が今以上に広範囲に流通・販売され、誰もが気軽に食べることができるようになるための条件やそのための取り組みについて、丁寧に調査を行っています。

担当教員より
大江 徹男
教授

「主体性」が当研究室のキーワードです。自ら設定したテーマについて、自らの頭と足を徹底的に使い勉強し、調査を実施しています。そのようにして得た知識や情報こそが血となり肉となり、みなさんの成長を後押しします。

卒業生からのメッセージ

一期一会
～食料環境政策学科との出会い～

2014年
食料環境政策学科卒業
土橋 祐斗
森永製菓株式会社営業本部
関西統括支店大阪支店勤務

「食べることが好き」。シンプルな理由から本学科を専攻した私ですが、日を増すごとに食や環境について多角的に考察する本学科の魅力にのめり込んでいきました。そして、将来は「食」を通じたビジネスに携わりたいと考え、菓子・食品・冷菓・健康という幅広いカテゴリーで事業を展開している森永製菓への入社を決意しました。本学科との出会いが私の未来を切り拓いてくれたことに間違いありません。一期一会の出会いに感謝感激です。

TOPICS 卒業論文作成

4年間の学びの集大成に挑む

4年間の学びの集大成となるのが卒業論文の作成です。当学科では3～4年を通して「リサーチゼミ・卒論ゼミ」に在籍し、教員の指導を受けながら各自が興味をもったテーマを究めていきます。卒論のテーマはさまざまですが、食料、環境、農業、地域、開発といったキーワードに関するものが多くを占めます。論文作成の過程で悪戦苦闘している姿を見かけますが、自ら得た知識や考え方を文章にまとめる作業は、何かを伝える・表現するためのトレーニングにもなります。現地に出向いて行ったヒアリングを基にしたり、色々な場所で集めたアンケートを基に物事を論じるなど、「足で稼いだ」卒業論文が多いのも、食料環境政策学科の特色といえます。（橋口 卓也 准教授）

DATAでわかる食料環境政策学科

在籍状況（2018年4月1日現在）

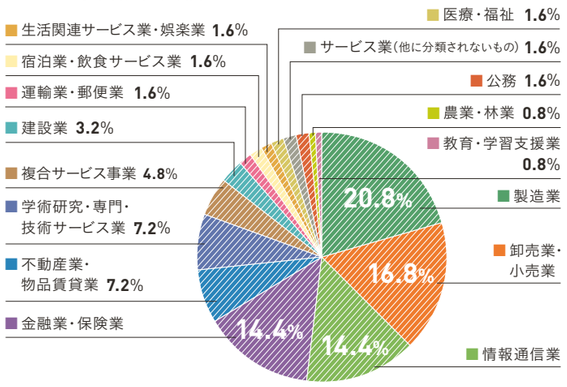
	男子	女子	男女
1年	84（58%）名	62（42%）名	146名
2年	82（51%）名	79（49%）名	161名
3年	72（54%）名	62（46%）名	134名
4年	79（52%）名	74（48%）名	153名
合計	317（53%）名	277（47%）名	594名

研究室状況（2018年4月1日現在）

研究室数	平均所属学生数	研究室所属率
15	17.4人	90.9%

2017年度進路状況

2017年度就職実績



主な就職先（大学院生を含む）

・（株）みずほフィナンシャルグループ	・NECソリューションイノベータ（株）	・デリカフーズ（株）
・（株）クボタ	・エバラ食品工業（株）	・（株）日本政策金融公庫
・JTBグループ【旅行事業会社群】	・（株）キーエンス	・日本たばこ産業（株）
・農林中央金庫	・国家公務員　一般職	・（株）不二家
・松田産業（株）	・（株）サカタのタネ	・三菱食品（株）
・三井不動産リアルティ（株）	・積水化学工業（株）	・森永乳業（株）
・井関農機（株）	・全国農業協同組合連合会　神奈川県本部	

［ 食料環境政策学科の教育・研究スタッフ ］

国際開発論研究室

開発途上国の飢餓と貧困について考える

池上 彰英 教授／博士（農学）

世界には貧しい国と豊かな国があり、飢餓と飽食が併存しています。途上国に関する多様な知識と視点を身につけることが、本研究室の目標です。

フードシステム論研究室

グローバル下における「農」と「食」について考える

大江 徹男 教授／博士（経済学）

当研究室では、グローバル下における農産物・食品の価格形成や流通の実態について考察し、地域間格差や私たちの生活について考えます。

農業マネジメント論研究室

ひとりひとりが農業、農村の応援隊員になろう!

竹本 田持 教授／博士（農学）

農家のみなさんとの直接交流を大切にしながら、農業経営の多角化や農業・農村関連ビジネスをキーワードに農村地域活性化を考察しています。

農業政策論研究室

日本農業の現実と農業政策の立場を考える

橋口 卓也 准教授／博士（農学）

主に戦後の日本の農業政策の動向を学びつつ、時々の政策が農業の現実に対して、いかなる立場をとってきたのか、その背景は何かを考察します。

食ビジネス論研究室

食ビジネスを経済学的に考える

中嶋 晋作 専任講師／博士（農学）

ローカルには農産物直売所、グローバルには多国籍アグリビジネスまで、農や食に関わるビジネスについて、経済学的に考えます。

食農メディア論

報道が伝える農業と現場のギャップを知る

榊田 みどり 客員教授／農業ジャーナリスト

報道と現場には常に多少のズレが生まれます。自分の実感と判断力で、報道をどうとらえ直すか。その姿勢を養える講座になればと思っています。

社会調査法入門

農村振興策として、農産物の加工・販売を考える

高橋 みずき 助教／博士（農学）

農村では農産物の加工・販売をはじめ、さまざまな取り組みにより活性化が目指されています。社会調査を通じ、課題の解決策を考えます。

環境社会学研究室

農業と環境、環境問題の構図を「社会学的に」読み解く

市田 知子 教授／博士（農学）

当研究室では、環境に配慮した農業政策を学び、環境問題に関わる地域住民や自治体などの関係を「社会学的に」読み解いていきます。

環境経済論研究室

食料・農業から環境問題を考える

廣政 幸生 教授／農学博士

環境問題は身近なことから地球規模まで幅広い。ヒトの経済行動を視点として、問題を解明し解決策を考察できる理解力と洞察力を養います。

資源経済論研究室

経済学を通して農村を取りまく多様な社会問題を考える

藤栄 剛 准教授／博士（農学）

環境問題など多様な社会問題の解決のためには何が必要とされているのでしょうか。農村を取りまく農業・資源・環境問題を経済学の視点から考えます。

環境資源会計論研究室

共有価値を創造して社会的課題を解決してみませんか

本所 靖博 専任講師／修士（商学）

環境と経済の関係を社会にわかりやすく伝えるのが会計。その手法を使ってフィールドに飛び出し、社会的課題を解決してみませんか。

アジア農業論

東アジアの農業・農村問題について考える

暁 剛 特任講師／博士（農学）

東アジアには、日本、中国、韓国、モンゴル国などが含まれます。東アジアの農業・農村問題の共通性と異質性について考えます。

食料農業社会学研究室

食べものと食べることを、社会現象として考える

大内 雅利 教授／博士（農学）

食料の始点から終点までを社会学から考えます。たとえば、誰が、どのように食料をつくり、誰が、何を、どのように食べているのかです。

食料貿易論研究室

グローバルに活躍できる人材を育てる

作山 巧 教授／博士（国際経済学）

農水省でのTPP交渉、ロンドンでの大学院留学、パリでの外交官、ローマでの国連職員といった国際経験をいかして、世界で通用する人材を育てます。

国際農業経済論研究室

先進資本主義諸国と日本の農業・農業政策の比較研究

石月 義訓 准教授／修士（経済学）

欧米先進諸国の農業・農村やアグリビジネスの展開を知り、比較検討することによって日本の農業・農村の進むべき道を模索します。

共生社会論研究室

世界の「ムラ」の知恵から競争と共生を考える

岡 通太郎 専任講師／博士（地域研究）

経済と自然の両立はなぜ難しいのか。豊かさとは一体何か。世界のさまざまな生活の中から我々が進むべき未来について考えます。

「地域農業振興特別入学試験」を実施

食料環境政策学科では、現在の農業・農村が抱えている問題に、学科として具体的に何が貢献できるかを検討してきました。その結果、地域農業・農村の発展に貢献できる人材を育成することが重要だと判断しました。将来、それぞれの地域で後継者または指導者として活躍したいという強い意欲をもった志願者を対象に、2002年度より「地域農業振興特別入学試験」を実施しています。当入学試験は、通常のペーパーテストでは測れない農業や地域に対する熱い思いを重視します。入学後は、食料環境政策学科の実習科目・専門科目を学習するだけでなく、ほかの3学科においてある科目を必要に応じて、履修できます。このような学習環境を十分に活用することで、地域農業・農村を総合的に考察できる人材となり、卒業後、それぞれの地域で活躍することを期待します。

詳細は ▶P.52 へ

※研究室は退職等により変更となる場合があります。 ※研究室入室にあたっては選抜試験が実施される場合があります。

総合科目 General Education

すべての学問領域の基本となる知識を学ぶ

総合科目は専門の枠を越え、農学部の全学生を対象にした科目です。これらは各学科の専攻科目と対をなし、すべての学問領域の基礎となる重要な科目でもあります。内容は人文科学、社会科学、自然科学など幅広い教養を養う「共通科目群（第一分野〜学際的分野）」、生きた語学力を育成する「外国語科目群」、スポーツ実習や健康と運動の科学理論を学ぶ「保健・体育科目群」の３領域に分けられています。

総合科目の中には、指定された学年次に履修しなければならない科目もありますが、多くは１年次から４年次までのいずれの学年次でも履修が可能です。農学に関する専攻科目と、その土台となる幅広い領域の総合科目とが有機的に融合するところに、本学部の特長があります。

[総合科目 科目一覧]

共通科目群

第一分野			第二分野	第三分野	学際的分野	
人文科学系			社会科学系	自然科学系	複合科目系	
宗教の哲学	ことばと文化A	西洋の歴史	経済学	生物学基礎	生命倫理学	ICTアプリ開発Ⅱ
科学の哲学	ことばと文化B	アジアの歴史	社会学	物理学基礎	共通総合講座Ⅰ	ICTコンテンツデザインⅠ
現代倫理学の諸問題	日本語表現A	Global Competence A	民俗学	化学基礎	共通総合講座Ⅱ	ICTコンテンツデザインⅡ
論理的思考の技法	日本語表現B	Global Competence B	法学	数学基礎	ICTメディア編集Ⅰ	ICT総合実践Ⅰ
心理学A	文芸思潮	Global Competence C	農業経済初歩概説	農芸化学初歩概説	ICTメディア編集Ⅱ	ICT総合実践Ⅱ
心理学B	地域文化研究		日本国憲法	生命科学初歩概説	ICTアプリ開発Ⅰ	
日本文学	日本の歴史A			生物生産学初歩概説		
外国文学	日本の歴史B					

外国語科目群

第一外国語		第二外国語		その他の外国語	
英語Ⅰa・b	日本語Ⅰa・b	ドイツ語Ⅰa・b	スペイン語Ⅰa・b	資格英語	朝鮮語
英語Ⅱa・b	日本語Ⅱa・b	ドイツ語Ⅱa・b	スペイン語Ⅱa・b	資格ドイツ語	ギリシア語
英語Ⅲ	日本語Ⅲ	ドイツ語Ⅲ	スペイン語Ⅲ	資格フランス語	ラテン語
科学英語		フランス語Ⅰa・b	中国語Ⅰa・b	中国語	イタリア語
英語コミュニケーション		フランス語Ⅱa・b	中国語Ⅱa・b	ロシア語	アラビア語
		フランス語Ⅲ	中国語Ⅲ	スペイン語	

保健・体育科目群

講義科目		実習科目		
運動学	健康科学	スポーツ実習Ⅰ	スポーツ実習Ⅱ	スポーツ実習Ⅲ

総合科目ゼミナール（サブ・ゼミナール）

ゼミナール　ゼミナール論文

詳しくはホームページへ。 http://www.meiji.ac.jp/agri/department/general_subject/cr_sogo.html

授業REPORT **Global Competence A**

担当教員 Vogt,Lisa D. 特任教授

A “Full” Study-Abroad Experience

For a study-abroad experience to fully achieve its educational goals and to maximize student learning, it is important for students to have pre-departure preparation that goes beyond the logistics of travel and getting set up in the host country. It is also not enough for students to have simply taken extra English language courses. What is often sorely lacking is the groundwork for a frame of mind; knowing what to expect; and having an arsenal of tools to deal with situations that inevitably arise. It’s mottainai to spend time abroad just observing and not participating in the culture. If you are thinking about someday studying or working abroad, and you’d like to have a truly enriching international experience, then this is a class that you should consider taking.

授業REPORT **スポーツ実習Ⅲ**

担当教員 保健体育第Ⅱ研究室 加納 明彦 准教授

冬の大自然の中でスキーを楽しもう

「スポーツ実習Ⅲ」は毎年２月上旬に長野県菅平高原で行われるスキー実習です。農学部に在籍するすべての学生が履修できるこの実習は、初心者から上級者までが各々のレベルに応じた講習を受けられるようになっています。スキー技術の向上を目指すとともに、生涯スポーツとしてのスキーを安全に楽しめる能力を養うことも目的となっています。近年、娯楽の多様化に伴ってスキー人口は減少傾向にあります。しかし白銀の大自然の中でスキーの楽しさを知ることは、日常生活やネット上のバーチャルリアリティの世界では得られない貴重な体験となるでしょう。リフトに乗っているとき、森につながる新雪を見下ろしてみてください。野兎やキツネなどの足跡を発見して感動を覚えることも。学科、学年、男女の区別なく過ごす３泊４日の山の上での実習生活は、学生時代の良き思い出のひとつになるはずです。

TOPICS **農学部語学教育の特色**

辻 朋季
専任講師

外国語学習を通して教養を深め、視野を広げよう

大学での語学学習の目標には、コミュニケーションの手段として言語の運用能力を高めることのほかに、言語の背景にある文化を広く学ぶことにより教養や精神を豊かにすることが挙げられます。この両方が備わって初めて、真の語学力が身についたといえるでしょう。大学ではぜひ、ツールとして語学を学ぶだけでなく、言語の成り立ちや、その言語を支えている「ものの見方」にも関心をもち、ことばの奥深さにふれてほしいと思います。

また農学部では、英語のほかに、選択必修の第二外国語（ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語）も学びます。新しい外国語を短期間で学ぶのは簡単ではありませんが、ヨーロッパの大学でも、必修の英語のほかにもうひとつ外国語を学ぶことがスタンダードになっています。ふたつの外国語を並行して学ぶことは、英語を異なった視点から捉えたり、日本語を客観化して見つめ直したりする機会になりますから、日々の学習を通して、言語への感性も高めていってほしいと思います。

▶総合科目 | General Education

[総合科目の教育・研究スタッフ]

英語第Ⅳ研究室

英語史研究ならびに人間精神と言語の関連をさぐる

織田 哲司
教授／博士（文学）

人間の脳という有限と無限の交点から生まれる言語に目を向けて、人間とはどういう生き物なのかについての洞察を深めてください。

保健体育第Ⅱ研究室

スポーツ・バイオメカニクス

加納 明彦
准教授

スポーツ選手の動作について高速度カメラによる三次元解析や地面反力の分析を行い、熟練動作のメカニズムを検討しています。

哲学研究室

カントを中心とする西洋近世の形而上学・倫理学

長田 蔵人
専任講師／博士（文学）

近代科学の成長は、人々の世界観・価値観にどのような変化をもたらしたのでしょうか。私たちの科学的世界像の基礎を研究しています。

保健体育第Ⅰ研究室

パフォーマンスを考える

多賀 恒雄
教授

高い競技力を有する人もいればそうでない人もいます。何故でしょう？ その要因を運動能力的観点から検討しています。

フランス語研究室

日本という家から飛び出そう

高瀬 智子
准教授

家の外観は外からしか見えませんね。外国語、たとえばフランス語を学ぶことは日本を外から見るもうひとつの視点を得ることなのです。

英語第Ⅱ研究室

言語や文学の研究から人間の営みを探る

狩野 晃一
専任講師／博士（英米文学）

現代の日本から遠く離れているように思える中世ヨーロッパ。いかに異なり、どのような共通点をもつのか。言語変化や文学伝統の研究を通じて人間とは何かを探ります。

日本語研究室

読書文化と日本の近代

松下 浩幸
教授

夏目漱石や樋口一葉などの日本文学や、社会における読書の意味など、活字メディアが生み出した近代の文化現象について研究しています。

英語第Ⅰ研究室

風景をとおしてみる自然と言語

樋渡 さゆり
准教授

自然観や言語観、美意識が大きく転換した産業革命から進化論の時代にスポットをあて、現代の私たちの文化や生活を考えます。

英語第Ⅲ研究室

言葉を通して人間を学ぶ

下永 裕基
専任講師

中世初期の「古英語」の研究室です。古い文献は宝箱。読めば昔の人の歩みを追体験でき、さらに語源や文法の謎も解けていきます。

ドイツ語研究室

日独文化交流史の再検討

辻 朋季
専任講師／博士（文学）

ポストコロニアリズムの理論や研究成果を取り入れて、この観点から文化交流史（特に日独交流史）の再検討を目指しています。

農学部特任教員

What's Global Competence?

Vogt, Lisa D.
特任教授

I study how globally competent individuals and entities exhibit cultural sensitivity, weigh perspectives, adapt, and communicate across cultures.

※研究室は退職等により変更となる場合があります。

教員からのメッセージ

さまざまな事柄に積極的にふれてみよう

保健体育第Ⅰ研究室
多賀 恒雄 教授

大学教育の目的は、一言でいえば教養あふれる専門的知識人の育成ということになります。農学部でも、教養教育を重視し、専門教育とは別に共通科目群として4つの分野を設置し、幅広く履修できるよう配慮しています。しかし、ただ与えられたものを消化するという勉学のあり方では大きな学習効果は期待できません。受け身にならず、物事の背景にある歴史や文化、精神等に思いをはせながら積極的に学ぶ習慣を身につけてほしいと思います。そうすれば、理解も深まり、同じ事象でもまた違ったものが見えてくるかもしれません。また、配置された科目を学ぶだけではなく、さらに多くの事柄にすすんで取り組むと同時に、さまざまな体験をすることも教養を涵養する上で大切です。こうした活動を通して得られた力は、専門的分野での活躍はもちろんのこと、豊かな人生を送る上で無くてはならない大切なものとなってくるでしょう。このことを深く認識して、共通科目を積極的に受講するとともに、さまざまな事柄にチャレンジし、「教養」という能力を開発してくれることを期待しています。

生田キャンパス 主な研究施設・設備

生田キャンパスマップ

1 中央校舎

生田キャンパスの中心に建つ中央校舎には、農学部事務室等の各事務室、診療所、学生相談室、教室、情報処理教室、メディアホールなどがあります。

2 3 4 5 6 7 1～6号館

1～6号館には、教室、ゼミ室、学生実験室や各教員の研究室があります。授業や研究は、基本的にこれらの建物と中央校舎を使用して行われます。

G H I J K L M N

詳細は ▶P.41-42 へ

8 ハイテクリサーチセンター

理工学部と農学部が合同で利用する施設。内部には、数千万円クラスの研究装置から、中には1億円を超える最先端機器も設置されています。

A B C D E F

詳細は ▶P.41 へ

9 温室

主に品種改良等を試験的に行うために使用されており、花卉類やトマト、果樹を栽培する研究室や、地球温暖化に対応した亜熱帯地域の作物を栽培する研究室などが主に利用しています。

Q

詳細は ▶P.42 へ

10 南圃場

土壌分析の研究や作物栽培の研究などを行っている複数の研究室が、実際に生産や収穫、調査を行うための実験圃場です。

P

詳細は ▶P.42 へ

11 図書館

自然科学系資料を中心に約40万冊を所蔵している図書館は、平日は22時まで、休日も開館しています。毎日の学習・研究の場として欠かすことのできない図書館で、豊かなキャンパスライフを送ることができます。

12 植村直己記念碑

1964年に農学部を卒業し、1984年2月12日、世界初のマッキンレー冬期単独登頂に成功し、帰らぬ人となった世界的冒険家"植村直己"の記念碑。農学部創立記念庭園の中央にそびえ立ち、学生たちの憩いの場となっています。

13 食堂館スクエア21

3階建ての学食で、コンセプトの異なる2つの食堂が入っています。夜まで開いているので、構内に滞在する時間の長い理系学生にとっては力強い味方。昼ご飯だけでなく夜ご飯も食べることができます。

※見学の際は事前に中央校舎1階の生田キャンパス課（受付対応時間：月～金 8：30～16：30、土 8：30～12：00）までお立ち寄りください。

充実した研究施設＆設備

バイオサイエンスをはじめとする科学・技術の発展は、近年目覚ましいものがあります。これらの技術を利用して、生物の仕組みを解明するためのさまざまな機器類が開発されてきました。それに伴って機器類が身近にあるか否かで研究手法が限られてしまうこともあります。農学部では、最先端の研究に要求される高度な研究機器類を整備し、研究体制の充実を図っています。これらの研究機器類を利用して、生物の生きていく仕組みについての研究を進めると、そこには無限の不思議と、無限の可能性があることに気づくでしょう。そこから得られた情報を私たちの生活にどこまで還元することができるのか、研究の進展が期待されます。

TOPICS 農商工連携研究のモデルケース

人工光を使って野菜を栽培する施設が2011年に完成！

「明治大学植物工場基盤技術研究センター」での研究には2つの特長があります。1つめは「完全人工光型」すなわちランプを使った植物栽培の研究を行うことです。空きオフィスなどを活用して野菜を供給する都市型農業の形態のひとつとして、植物工場は大きな可能性を秘めています。2つめは、本学が総合大学であることをいかし、学部の枠を越えて商、経営、理工、農学部などが協力体制を組み、農商工連携研究のモデルケースとして運用していくというもの。植物工場ほど、それらが一体とならなければ成り立たない産業はありません。

ハイテクリサーチセンター

A 液体クロマトグラフ 質量分析計(LC-MS/MS)

複合試料が高速で分離できる装置に最先端の質量分析計を結合させた機器。ペプチドなど低分子化合物の質量を素早く高感度で分析できます。

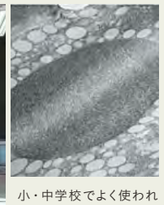
B 飛行型質量分析計 (MALDI／TOF-MS)

田中耕一さんのノーベル賞受賞(2002年)で、その名前が一般的にも知られるようになった質量分析計。タンパク質や核酸などの高分子化合物の質量を超微量で分析できます。

C 走査型電子顕微鏡 (SEM)

物質の表面構造を観察するときに用いられる電子顕微鏡。微生物の丸ごとの形態や動植物の組織構造などの観察に利用されています。

D 透過型電子顕微鏡 (TEM)



小・中学校でよく使われる光学顕微鏡より、10万倍以上小さな物が見える顕微鏡。ナノスケールのウイルスやタンパク質1分子を観察できます。

E ガスクロマトグラフ／質量分析装置(GC／MS)

ガスクロマトグラフ(GC)と質量分析装置(MS)を結合した複合装置です。GCで分離した単一成分についてMSスペクトルを測定することにより成分の定性を行い、MSにより検出されたイオンの強度により定量を行います。有機化合物(特に低分子量成分)の定性・定量を目的とした分析に活用しています。

F 解析用サーバー

コンピュータ(サーバー)は大規模解析を実現します。解析用サーバーでは、ゲノム配列決定や新規遺伝子探索、生物種間での遺伝子の類似性の解明など、さまざまな大規模解析を可能とします。また、解析データを全世界に発信するWebサーバー機能も備えています。

1～6号館

G 蛍光画像解析装置

電気泳動したゲルに含まれるタンパク質や核酸の大きさや濃度などを測定できます。

H 高速次世代 シークエンサー

初期のゲノムプロジェクトでは何年もかかったヒトゲノムの30億塩基対を1～2日程度で決定できる能力をもったシークエンサーです。農学部特有の配列未知の動植物や微生物のゲノム解析からエピジェネティクスなどのポストゲノム解析までを行うことが可能です。

I セクショニング 蛍光顕微鏡

微生物や、動物細胞の内部でおきている変化を「生きたまま」「リアルタイムで」観察することができます。細胞内の特定のタンパク質を赤や緑の蛍光で検出し、それらの画像を解析することで細胞の変化を研究しています。

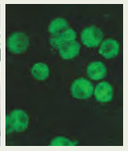
J 誘導結合プラズマ 質量分析計(ICP-MS)

高温のプラズマと磁場の中に液化試料を導入し、わずかな質量差を捉えて土壌、動植物など、物質を構成している多元素の微量分析ができます。

K マイクロアレイデータ 処理装置

刺激や環境条件による数万種類の遺伝子発現の変化を網羅的に調べる装置で、ポストゲノム解析に活用しています。

L 共焦点レーザー顕微鏡



レーザー光源を用いることでCTスキャンのように細胞の断層写真を撮ることができる顕微鏡。データを集めてコンピュータ上で3次元立体画像をつくることもできます。細胞内のタンパク質、染色体などの状態を解析するのに活用しています。右上の写真はヒトT細胞の写真。

M 水利実験場

維持管理が容易で、環境に配慮した水路や取入堰などの水利施設の開発や改良をするために模型を製作して実験を行っています。写真は、農業用水路を使った小水力発電のための水車の実験をしているところです。

N 植物培養室

光や温度を人工的に調節できる培養室です。遺伝子導入した細胞からの植物個体の再生や、低温・乾燥などの環境条件に対する植物の応答や遺伝子機能の解析に利用しています。

その他

O バイオテクノロジー 実験設備棟

植物・微生物等の遺伝子組換え実験を行うためのクリーンルーム。外気からのホコリの侵入を防ぐエア・カーテン設備、および組換え植物の花粉等が外に拡散しないための設備を有しています。

P ライシメータ

作物を実際に栽培しながら、降雨量、灌水量、および排水量を観測し、作物の蒸発散量(要水量)を経時的にとらえるための施設です。地下水を調節することも可能であり、作物生産において重要な水収支との関係を定量的に解析しています。

Q 温室

水耕栽培・礫耕栽培としての施設園芸を行っている研究実験用の温室です。主に品種改良等を試験的に栽培するためなどに使用されています。

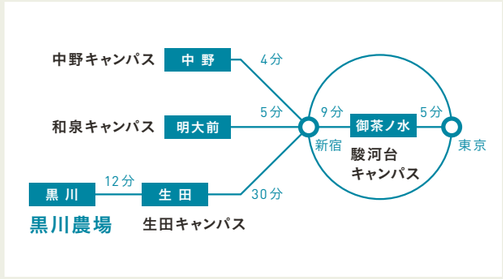
R 温室効果ガス交換量 測定装置

水田における温室効果ガス(CO_2、N_2O、CH_4)の発生量と吸収量を経時的に測定する装置で、3次元超音波風速計と光音響式ガスモニターから構成されています。熱収支各項と土壌環境の測定も同時に行っています。

明治大学**黒川農場**

自然と共存する、最先端農場で学ぼう

環境・自然・地域との共生をコンセプトに2012年、神奈川県川崎市麻生区に開設されたのが黒川農場です。生田キャンパスからも近く、これまで難しかった年間を通じた持続的な実習も可能となりました。当農場はもともとの自然を最大限にいかした設計がされており、先端技術を駆使した生産効率の高い栽培システムと環境保全型システムを併せもちます。また、地域と大学の連携による多目的な都市型農場を目指しているのも黒川農場の特長です。



農学部に所属する9割以上の学生が、黒川農場での「農場実習」を半期または通年、体験しています。また、農場実習入門は、学部間共通総合講座として開講しているので、希望すれば他学部の学生も受講することが可能です（土曜日のみ）。

温室

土耕栽培や人工培地による養液栽培など、さまざまな栽培方法により最先端の施設園芸を行うための施設。温室内の一部にはバイオマス燃料を使用したペレットボイラーが導入されています。

人工光・閉鎖型苗生産システム

密閉された空間で、温度管理・光照射・灌水などすべてを自動で行うシステムを備えた施設。季節や天候に左右されることなく、苗を無菌的に短期間で育て、連続的に供給可能です。

ペレット加工室

農場周辺の里山林の木や枝などをチップ化およびペレット化し、温室の暖房の燃料などに使用します。

本館

鉄筋コンクリートと木造のハイブリッド構造で建設されたシンボル的施設であり、教室、実験室、研究室、教員室、事務室などを有した教職員と学生の教育・研究の拠点となる建物です。

本館2階 学生ラウンジ

学生が実験実習の合間に休憩したり、ディスカッション等に利用できるスペースです。木質構造で温かみがあり、くつろげる空間に設計されています。

黒川農場マップ

里山

黒川農場の周縁は里山になっており、植物、哺乳類、鳥類などの自然と黒川の文化を、里山を通して総合的に学ぶフィールドとして使用されます。

豚舎

食肉生産用だけではなく、体外受精やクローニング等の先端技術を駆使して生産された研究用ブタが飼育可能な施設です。

圃場

主に学生が使用する実習圃場です。一般野菜圃場に加えて有機栽培圃場など、さまざまな栽培方法を通年で学ぶことができます。

加工実習棟

漬物、ジャムなど、学生の食品加工実習に利用されている施設。農学部では明治大学ブランドの加工食品の生産を目指しています。

農場実習の担当スタッフ

循環型農業技術の追求

佐倉 朗夫 特任教授

生態的バランスの中で、作物の生きる力を引き出し、健康な食べ物を生産する農業本来のあり方を考えていきます。

農業と資源循環について考える

蜷木 朋子 特任講師／博士（農芸化学）

バイオマスの肥料としての利活用を、新しい技術を含め、多角的に追求し、変化に富んだ生産現場に対応できる資源循環型農業の構築を目指して研究しています。

少しの環境制御で作物生産を向上

小沢 聖 特任教授／博士（農学）

地表面の形状を変えたり、薄布で作物を被覆したりすることで地温、気温を少し制御し、作物収量を上げる技術を開発しています。

土壌微生物を活用した物質循環型農業の研究

甲斐 貴光 特任講師／博士（理学）

微生物を活用した土壌診断を行い、有機農法にとって最適な土づくりを研究しています。収穫量と土壌との関係についても考察します。

地域農産物の有効利用

小清水 正美 客員教授

地域で生産されている多様な農産物の加工特性を調べ、これら農産物を有効に利用・加工する方法を考えていきます。

教員からのメッセージ

「未来型アグリ・エコファーム」を志向した最先端研究

玉置 雅彦 教授

「種蒔きから収穫まで」、「都市と里山」の2つのキーワードを軸とし、露地圃場、先端的な栽培システムを備えた温室、加工実習棟、里山などを実習の場として、体験と実践を基本とした黒川農場ならではのユニークな実習教育を行っています。また、黒川農場は、高度な先端技術を駆使した栽培システムと、資源循環型・環境保全型のエコシステムを併せもった新しい農業形態「未来型アグリ・エコファーム」を志向しています。農場での研究成果は、黒川地区や川崎地域のみならず、アジア諸国にも還元していきます。

国際交流（留学制度）

2つの留学制度と短期海外研修

明治大学の留学制度には、明治大学と留学の協定を結んでいる高等教育機関等へ学内選抜を経て派遣される「大学間協定留学」と、自分で留学希望高等教育機関等に出願手続きをして、明治大学の許可を受けて留学する「認定留学」の２種類があります。

両制度とも、留学先機関で取得した単位は所属学部・研究科において所定の手続き・審査を経ることで、本学の卒業要件単位として認定される可能性があります。

また、明治大学では毎年８月に英語、フランス語、ドイツ語など、２月にも英語などの約１カ月の短期海外研修を実施しています。実施国はカナダ、イギリス、フランスなどです。いずれも、詳細は明治大学ホームページ内の「国際連携・留学」のページを確認してください。

［ 留学の条件 ］

	大学間協定留学		認定留学	
資格	学部生	①出発時2年次以上（出願時1年次以上） ※韓国、オーストラリア、南アフリカ、その他一部の協定校を除く。 ②在学1学期につき卒業要件単位を15単位程度取得していること。1年生の志願者は、1年生終了時に卒業要件単位を30単位以上取得していること。	学部生	①出発時2年次以上 ②在学1学期につき卒業要件単位を15単位程度取得していること。1年生の志願者は、1年生終了時に卒業要件単位を30単位以上取得していること。
	大学院生	指導教員の許可等	大学院生	指導教員の許可等
人数	各大学につき毎年度1～2名（相手校により異なる）		制限なし	
費用	・留学先機関の授業料免除有無は、留学先機関との協定により異なる（本学の学費は納付）。 ・渡航費や滞在費などは自己負担。		・すべて自己負担。 ・本学と留学先大学の両方の学費を納付。	
助成	学内選考のうえ留学経費を助成する制度あり。		学内選考のうえ留学先大学授業料の一部ならびに留学経費を助成する制度あり。	
外国語能力	・英語圏：少なくともTOEFL-iBT®61点以上が必要。大学によっては、さらに高いスコアが必要である。 ・その他の言語は協定校の定める基準に従う。		留学先の高等教育機関等によって異なる。	

※詳細に関しては国際教育センター発行「海外留学の手引き」や、各学部・研究科のシラバスなどを参照してください。

［ 農学部・留学可能な協定校 ］ 2018年1月現在

農学部の長期留学制度（学部間協定校留学）

「大学間」の協定に基づく留学制度には全学部から応募できますが、農学部には農学部の学生しか応募できない独自の「学部間」協定校があります。「学部間」協定校は、農学系の学部学科を有する大学なので、語学力の向上だけでなく、日頃勉強している専門分野の学びを深めることも期待できます。以下、学部間協定校に指定されている５つの主な大学を紹介しておきましょう。

カセサート大学 カンペンセン校農学部（タイ王国 カンペンセン）

カセサート大学は1943年に創立され、タイ国の中でもトップスクールのひとつにランクされています。カンペンセン校農学部は1979年にできた学部ですが、タイの農学分野で先導的な役割を担ってきました。留学生にも開かれた大学であり、キャンパス内には留学生寮が完備されているので、安全かつ安価な滞在が可能です。留学生の割合は全学生の１～2%となっています。

シーナカリンウィロート大学 農産物革新・技術学部、経済公共政策学部（タイ王国 バンコク）

シーナカリンウィロート大学は1949年に創立された国立大学です。現在は医学部や薬学部も設置されて総合大学となっています。明治大学とは非常に深いつながりがあり、積極的に相互に学生の派遣や受け入れを行っています。食料環境政策学科の科目やタイ語の授業についてはプラサンミットキャンパスをメインとし、農産物革新・技術学部を含む自然科学系の理系学部はナコンナーヨック県にあるオンカラックキャンパスをメインとして利用することになります。

ハワイ大学 マノア校 熱帯農学・人的資源学部（米国 ホノルル）

ハワイ大学は1907年に創立されたハワイ州立の大学です。大学のあるオアフ島は特殊な熱帯環境条件にあるため、ハワイ大学は熱帯農学分野の研究において世界的にも有名です。キャンパスはワイキキビーチから程近い立地ながらも閑静な住宅地にあり、落ちついた環境の中で生活を送ることができます。また、世界中から集まった留学生たちによる国際交流も活発に行われています。

チュラロンコン大学 理学部（タイ王国 バンコク）

チュラロンコン大学は18の学部により構成され、学士、修士、博士、ポストドクトラルを含むすべての学位を提供するタイにおける代表的な研究・教育機関であり、タイの最高峰の大学として位置づけられてきました。チュラロンコン大学理学部は、生物、化学、植物、微生物、生化学、食品科学、環境科学等の学科を有しており、農学部の教育研究分野と共通するものも多い学部です。キャンパスは首都バンコク市街に位置し、電車の最寄り駅が２つあり、無料バスで学内への移動が可能など、非常に利便性の高い大学です。

国立屏東科技大学 農学部、工学部（台湾 屏東県）

国立屏東科技大学は台湾南部に位置し、亜熱帯―熱帯農業と環境科学関連の研究と教育が熱心に行われている国立大学です。アジア各国から留学生の受け入れを多く行っており、英語授業による学位授与を含めた国際交流にも熱心な大学です。300ヘクタールと台湾最大の面積を誇る美しいキャンパスを持つ大学で、広大な敷地内に農場、牧場、植物園、野生動物保護センターなど、さまざまな施設が点在しています。特に実践的農業教育・研究で貢献しているため、生産者や現場との関わりが強い大学です。

農学部の短期留学制度（国際農業文化理解プログラム）

農学部では、国際農業文化理解（タイおよびミシガン州立大学）、国際農業文化理解プログラム（カリフォルニア大学デービス校）の３つの短期留学科目・プログラムを設置しています。2018年度から、タイおよびミシガン州立大学の短期留学は、授業科目として履修できるようになりました。

URL：http://www.meiji.ac.jp/agri/international/（詳細はこちらからご確認ください）

INTERVIEW 留学体験記 ｜ 留学先：シーナカリンウィロート大学（タイ）

自分の可能性への挑戦

食料環境政策学科４年
新井 瑠莉
岩手県立盛岡第一高等学校卒業

私は大学入学時から留学を見据えて、学内で行われる留学説明会や相談会に足を運び、さまざまな留学制度を検討しました。その中でも学部間協定留学のサポートの手厚さに魅力を感じました。そして東南アジアの経済の勢いを肌で感じたかったため、タイを留学先に選び、大学では国際経済学について学びました。自分の好奇心にしたがい挑戦することが留学成功の秘訣です。その中で得た出会いや経験は今の自分の自信につながっています。留学後の就職活動の遅れに不安はありましたが、留学中に出会った多くの人から多種多様な考え方や生き方を学び、将来の選択肢の幅を広げることができました。

大学院 農学研究科

農学研究科長
倉本 宣 教授

オリジナリティーを求めて、ダイナミックな姿勢で専門分野を学ぶ

卒業研究の内容を深めたり、学部時代に興味をもったことに取り組んだりするには、大学院で自分のテーマをもって研究することがかけがえのない機会になります。科学の発展は、専門を細分化させますが、専門領域のあいだで新たな関係を生み出します。自分の深い専門に加えて、少なくともうひとつ得意なことをもつこと、さらには科学と社会に対する広い視野をもつことが、すぐれた専門家としての社会から求められるオリジナリティーにつながります。そのような、深さと広さを併せもっているのが、明治大学大学院農学研究科です。その大きな魅力は、農学に関する幅広い専攻と、すぐれた教員スタッフ、自由な研究環境を有することです。

▶農芸化学専攻

最先端技術を駆使して、さまざまな問題に挑む

農芸化学専攻では、「食料・環境・生命」の分野における諸課題に、物理学・化学・生物学・分子生物学・工学の立場から取り組んでいます。先端技術を駆使して、私たちが安全で快適な生活を送るために必要な食糧・栄養や地球環境の問題の克服を目指します。

研究分野としては、動植物・微生物の栄養と代謝、有用生物の選抜と育成、生理活性物質の探索と生合成、生物を利用した土壌改良・環境浄化など、生物生産や資源生物に関する分野が中心となりますが、ほかに生産物を対象とする研究分野としては、新規食品素材や食品機能の開発などがあります。以上の教育・研究を通して、バイオサイエンス研究に必要な化学的・分子生物学的な知識を有し、幅広く農芸化学分野で社会貢献できる人材を養成します。

［教育・研究スタッフ］

教授	長田 恭一 竹中 麻子 中島 春紫 中村 卓 前田 理久 村上 周一郎
准教授	安保 充 荒谷 博 石丸 喜朗 川端 博秋 久城 哲夫 佐々木 泰子 鈴木 博実 中林 和重
専任講師	小山内 崇 加藤 雅彦 島田 友裕 瀬戸 義哉

院生生活REPORT

成長し続けられる学びの場

農芸化学専攻　博士前期課程2年
戎﨑 優子
山口県立下関西高等学校卒業

私の所属する微生物遺伝学研究室では、微生物の環境変化に柔軟に応答する能力を、ゲノムレベルで解明することを目的とし、多方面から研究を行っています。私は環境汚染物質から生分解性プラスチックをつくる研究をしています。研究を前進させるためには新たな知識や技術が必要となるため、常に自ら学び、答えを導こうとする力が身についたと実感しています。幾度となく困難に直面してきましたが、大学院の2年間は有意義な時間だったと胸を張っていえます。

▶農学専攻

人間社会の維持・発展に貢献する

農学専攻は、生産植物・環境植物・農地・農村・動物が研究対象です。その方法論は、生理学・生態学的方法から動物行動学・微生物学・生物化学・分子生物学・分子遺伝学・環境学・水理学・農村計画学・土壌物理学・疫学・バイオ統計学的手法等です。それは、生物や植物の群落・動物群レベルから、個体・器官・組織・細胞・分子レベルまで含みます。研究目的を解明しようとする課題のキーワードで示せば、作物収集・発育管理・病害抵抗性トランスジェニック・土地自然特性活用・緑化・希少種保全手法・免疫機能・代謝調節機構・有用菌遺伝子・有用酵素生産菌遺伝子クローニング・動物行動と繁殖・動物福祉等となります。これらの最終目的は、食料の持続的生産・健康と福祉・共生と循環等、人間社会の維持と発展に貢献することです。

［教育・研究スタッフ］

教授	池田 敬 岩崎 直人 倉本 宣 纐纈 雄三 玉置 雅彦 登尾 浩助 半田 高 丸橋 亘
准教授	糸山 享 大里 修一 菅野 博貴 小島 信彦 服部 俊宏 溝口 康 元木 悟
専任講師	新屋 良治 伊藤 善一 川口 真以子 塩津 文隆 矢崎 友嗣

院生生活REPORT

思考力育成の場

農学専攻　博士前期課程1年
水田 直澄
香川県高松市立高松第一高等学校卒業

私は、牛肉の霜降りのメカニズム解明を目的にウシ筋肉内脂肪前駆細胞を用いて研究を行っています。研究は、幅広い知識を身につけることやただ実験を進めていくことではありません。最も重要なことは知識を運用し、その実験結果から何がいえるかを考察していくことです。大学院生活を送っていくことで、専門的な知識やスキル、特に思考力を向上させることができる環境が整っています。

▶農業経済学専攻

食料・農業・環境を考え、応える

本専攻は、食料・農業・環境に関わる諸問題を社会科学の立場から解明し、人類の持続可能性の社会・経済条件を考究するという高邁な目的を持っています。これは、困難な時代の本専攻への社会的要請でもあります。そのため、社会科学諸学問の習得を基本として、専門的かつ総合的な観点と、フィールドに根ざしながらグローバルに考える複眼的な視点をもつことができる教育指導を行っています。大学院生自ら研究テーマを選び、充実したスタッフ陣によって、さまざまなアドバイスを受けることができます。スタッフと院生との距離が近いことも本専攻の特長であり、専用の研究スペースと情報機器を使用することができます。このような環境下で、研究に取り組んだ修了者は、試験研究機関、農業団体、官公庁、一般企業などで活躍しています。

［教育・研究スタッフ］

教授	池上 彰英 市田 知子 大内 雅利 大江 徹男 小田切 徳美 作山 巧 竹本 田持 廣政 幸生
准教授	石月 義訓 橋口 卓也 藤栄 剛
専任講師	岡 通太郎 中嶋 晋作

院生生活REPORT

足を使って理論と現場をつなぐ

農業経済学専攻　博士前期課程1年
羽賀 菜奈美
広島県広島市立基町高等学校卒業

私は“質的アプローチ”を基軸にして、度々農山村に足を運び、農業等の産業や過疎地域での暮らしの実態を把握したり、地域の過疎問題の背景の考察を行ったりしています。本専攻での研究には机上で理論を学ぶだけでなく、研究室を飛び出し自分の足を使って現場の「生」の情報を見聞きすることが不可欠です。先生や先輩方には「足を使って理論と実態をつなぐのが農業経済学だ」と、幾度となくアドバイスをいただき大いに啓発されます。大学院では、学部時代にはなかなか実感しえなかった農業経済学分野での学問を存分に体感することができます。しっかり学問がしたい！という人には、進学はもってこいであること間違いなしです。

▶生命科学専攻

生命の謎を解明し、人類の未来に貢献する

本専攻では生命科学とバイオテクノロジーの基本的な知識と研究手法を基盤とし、動物、植物、微生物を対象に基礎・応用にわたる研究と教育を行っています。タンパク質の構造と機能の研究、疾病発症機構の解明や食料生産に役立つ分子生物学的、情報科学的な基礎研究をはじめ、遺伝情報の発現や細胞の増殖・分化に関する研究、生体活動でのホルモンや体内時計の役割や、環境変化・病原体への応答メカニズムの解析、微生物の健康・環境への有効利用、クローン動物や遺伝子組換え動物の再生医学研究など、さまざまな分野の研究が各研究室で展開されています。本専攻の修了者は、食品、化学、医療、ゲノム解析、生物資源と環境の保全など、幅広い分野において活躍することが期待されています。

［教育・研究スタッフ］

教授	賀来 華江 川上 直人 桑田 茂 戸村 秀明 長嶋 比呂志 浜本 牧子 針谷 敏夫 矢野 健太郎 吉田 健一 渡辺 寛人
准教授	浅沼 成人 大鐘 潤 紀藤 圭治 田中 博和 中村 孝博 吉本光希
専任講師	乾 雅史 河野 菜摘子

院生生活REPORT

興味を追求しよう

生命科学専攻　博士前期課程1年
河原 夏希
広島県立広島皆実高等学校卒業

私は研究活動をするにつれ、知らないことが増えていき、学部で卒業するのはもったいないと思い進学しました。実験は一筋縄ではいかないことばかりですが、結果が出たときの喜びはひとしおですし、論理的な思考能力や忍耐力などが身についたと、成長を感じ取れることも魅力のひとつです。また、海外で成果を発表するなどの貴重な経験もできます。自分の興味を追求できる大学院への進学をみなさんも検討してみてください。

大学院生への支援制度

本学部では、大学院生を採用する助手制度、RA（リサーチアシスタント）制度、TA（ティーチングアシスタント）制度があり、学内にいながら一定の報酬を得ることができます。また、奨学金や研究支援のための学会研究発表助成なども行っています。

①助手制度：若手研究者の養成を目的とし、博士後期課程に在籍する大学院生を対象に、専門分野の研究や実験・実習および演習等の教育補助業務の他、学部の教育的行事業務を行います。

②RA制度：博士後期課程に在籍する大学院生を対象とし、学部内の研究プロジェクトや特定課題研究等において研究補助業務に従事します。

③TA制度：主に博士前期課程に在籍する大学院生を対象とし、学部学生に対する学習支援や、実験・実習等の授業科目における補助業務に従事します。教育者、研究者になるためのトレーニングの機会となっています。

④奨学金制度：修了と同時に返還義務が生じる貸費型と、修了後に返還の必要がない給費型の2つがあります。給費奨学金には、明治大学大学院研究奨励奨学金があり、学業成績・研究業績が特に優秀な方を対象に授業料2分の1相当額が給費されます。

⑤学会研究発表助成：研究成果の発表の場である各種学会発表に対し、その交通費および参加費（ともに上限あり）を年間2回まで助成し、学外への研究の成果発表を支援しています。

TAは、実験・実習授業等に参加して、担当教員をフォローする役目も果たしています。

［ 2019年度 大学院博士課程 入学試験日程 ］

	入試形態	対象	要項公開	出願期間	入学試験日	選考方法
博士前期課程	学内選考入学試験	本学部4年生	5月	6月4日～8日	7月7日	面接試問
	Ⅰ期入学試験	学部4年生・卒業生・留学生	7月	9月13日～19日※1	10月6日	英語・専門科目・専修科目・面接試問 ※農芸化学専攻のみ英語・プレゼンテーション
	Ⅱ期入学試験	学部4年生・卒業生・留学生	11月	12月10日～14日※2	2月1日	英語・専門科目・専修科目・面接試問 ※農芸化学専攻のみ英語・プレゼンテーション
	社会人入学試験	社会人・社会人経験者	7月	9月13日～19日	10月6日	書類審査・小論文・面接試問
			11月	12月10日～14日	2月1日	
	飛び入学試験	学部3年生	11月	12月10日～14日	2月1日	面接試問

	入試形態	対象	要項公開	出願期間	入学試験日	選考方法
博士後期課程	学内選考入学試験	本研究科博士前期課程2年生	5月	6月4日～8日	7月7日	面接試問
	Ⅰ期入学試験	博士前期2年生・修了生・留学生	7月	9月13日～19日※1	10月6日	英語・面接試問 ※農芸化学専攻のみ英語・プレゼンテーション
	Ⅱ期入学試験	博士前期2年生・修了生・留学生	11月	12月10日～14日※2	2月1日	英語・面接試問 ※農芸化学専攻のみ英語・プレゼンテーション
	社会人入学試験	社会人・社会人経験者	7月	9月13日～19日	10月6日	書類審査・小論文・面接試問
			11月	12月10日～14日	2月1日	

※1 留学生の出願期間は、9月3日～5日。　※2 留学生の出願期間は、12月3日～5日

詳細は「明治大学 大学院ガイドブック」をご覧ください。

［ 2017年度 農学研究科修了生の主な就職先 ］

・(一財)日本食品分析センター	・MCフードスペシャリティーズ(株)	・シマダヤ(株)	・(株)東ソー分析センター	・日本ハムファクトリー(株)
・(株)KSK	・大塚製薬(株)	・(株)住化分析センター	・東洋エアゾール工業(株)	・日本光電工業(株)
・国家公務員　一般職	・オルガノ(株)	・(株)誠和	・(株)中村屋	・(一財)日本穀物検定協会
・シミックホールディングス(株)	・神奈川県庁	・全国酪農業(協組連)	・日清オイリオグループ(株)	・(株)バスクリン
・千葉県庁	・キユーピー(株)	・筑波乳業(株)	・(株)日本アクセス	・(株)ファンケル
・(株)リニカル	・クミアイ化学工業(株)	・(株)ディスコ	・日本液炭(株)	・(株)武蔵野化学研究所
・(株)アルビオン	・(株)ケツト科学研究所	・デンカ生研(株)	・日本新薬(株)	・ヤマザキビスケット(株)
・(株)伊藤園	・敷島製パン(株)	・東京特別区	・日本水産(株)	・雪印メグミルク(株)

奨学金と学習支援

充実した明治大学の奨学金制度

学生生活を維持・充実させるためには、経済的負担が伴います。負担を軽減するために学生自身がアルバイトに力を入れると、時として学業に支障をきたすなどの影響が出てきます。そこで、明治大学では修学に必要な経費を補うために、多くの奨学金制度を設けています。奨学金は返済の必要のない給費型と、卒業後に返済の義務が生じる貸費型（無利子・有利子）のふたつに分けられます。奨学金にはさまざまな種類があります。明治大学独自の奨学金や、日本学生支援機構奨学金、民間団体や地方公共団体などが行う奨学金があり、応募資格や条件として、学業成績、人物、家計状況などの選考基準がそれぞれ定められています。多くの奨学金は4月上旬に募集を行うので、入学後に奨学金案内『assist』や奨学金掲示板で詳細を確認してください。

［ 農学部で利用できる主な奨学金 ］ 金額は2018年度予定

奨学団体	タイプ※1	申込制※2	奨学金名称	支給額等
	○	●	明治大学給費奨学金 （未来サポーター給費奨学生含む）	300,000円、400,000円、授業料の2分の1相当額：経済支援を必要とする学生に給付
	○	●	明治大学創立者記念課外活動奨励金	30,000円～500,000円：さまざまな分野で活躍している人、チャレンジしている人に給付
	○	●	明治大学創立者記念経済支援奨学金	240,000円～360,000円：経済困窮の両親ともにいない自活者や身体に障がいを持つ学生に給付
	○		明治大学学業奨励給費奨学金	授業料2分の1相当額：1～4年生が対象で入学後の学業成績優秀者に給付
	○		明治大学校友会奨学金	明治大学校友会からの寄付金を原資として、地域性および経済状況を重視したうえで選考し、給付
	○	●	明治大学スポーツ奨励奨学金	授業料相当額または授業料2分の1相当額：体育会運動部に所属し、スポーツ活動成績優秀者に給付
	○	●	明治大学連合父母会一般給付奨学金	250,000円：経済的に修学が困難な学業成績優秀者に給付
	○	●	明治大学連合父母会緊急給費奨学金	300,000円または400,000円：家計支持者の失職等による家計急変者に給付
	○	●	明治大学連合父母会特別給付奨学金	700,000円：家計支持者の死亡により給付
	○	●	明大サポート奨学金	授業料4分の1相当額：家計急変者・困窮者に給付
日本学生支援機構	△	●	第一種奨学金	20,000円、30,000円、40,000円、54,000円／月：自宅通学生、20,000円、30,000円、40,000円、50,000円、64,000円／月：自宅外通学生
	▲	●	第二種奨学金	20,000円～120,000円／月：額は左記範囲内10,000円刻みで選択
その他	○△	●	民間団体奨学金	15,000円～80,000円／月：額は奨学団体による
	△	●	地方公共団体奨学金	25,000円～52,000円／月：額は奨学団体による

※1 ○：給付型、△：無利子貸与型、▲：有利子貸与型　※2 ●：申請が必要な奨学金

大学院生が学生をサポートする「農学部学習支援室」

農学部では、農学部教職員から構成された学習支援委員会による「学習支援室」を開設し、学生の学習支援に恒常的に取り組んでいます。「学習支援室」は3つのエリア（学習相談エリア・自習エリア・パソコンエリア）から構成されています。

学習相談エリアには大学院生のTA（ティーチングアシスタント）が常駐しており、授業の不明点やレポートの書き方、研究室の選び方など、学生の質問や要望に応じて相談・アドバイスを行います。自習エリアやパソコンエリアには、辞書や参考文献もあり、個人やグループで自由に利用することが可能です。

［ 農学部学習支援制度 ］

1. 入学前教育プログラム	英語通信添削や学科別入学前課題の提出（特別入試入学者対象）
2. フォローアップ講座（英語）	短期集中の高校レベル英語復習講座（特別入試入学者対象）
3. フォローアップ講座（理科）	短期集中の高校レベルの理科（生物・化学）復習講座 （特別入試入学者および一般入試入学者対象）
4. 履修相談会	専任教職員による授業科目の履修に関する個別相談会
5. オフィスアワー	専任教員の各研究室で実施

明治大学の就職支援・資格取得

受験生のみなさんは、今は大学進学だけを考えて勉強に励んでいるはずですが、
「10年後、20年後、将来的にどんな人生を送りたいか」を考えるのも大切なことです。
明治大学では、キャリア相談や、就職ガイダンスなど、就職支援にも力を入れています。

4年間のキャリアデザイン

キャリア形成
- 学業
- 課外活動
- キャリア相談
- インターンシップ

就職活動
- 求職登録
- 自己分析・自己理解
- 業界研究、企業研究・団体研究
- 筆記試験対策
- 就職サイトに登録
- 企業(団体)にエントリー

エントリーシート記入および提出

会社説明会参加

筆記試験/面接

選考・内々定

1・2年次

キャリア形成
支援講座

キャリアデザイン
ガイダンス

3年次・大学院1年

5月 公務員ガイダンス

6月 プレ就職・進路ガイダンス

8月 全学版インターンシップ

9月 工場・事業所見学会

10月 就職・進路ガイダンス
就職適性検査・筆記試験対策テスト
エントリーシート対策講座

11月 就職活動体験報告会
WEB就職適性試験対策講座
グループディスカッション講座

12月 面接対策講座　業界研究会

12月 学内OB・OG懇談会

1月 就職活動ガイダンス

2月 模擬面接会

3月 学内OB・OG懇談会
学内企業セミナー

4年次・大学院2年

4月 学内企業セミナー

資格という「強み」をいかそう

明治大学には、各種資格を取得するための資格課程が設置されていて、農学部生も各課程に登録し、必要な単位を修得することで資格を取得できます。また、そのほかに農学部を卒業することで得られる資格・受験資格等もあります。

[課程別 明治大学に設置されている資格課程の種類]

課程名称	学科	取得できる免許状・資格
教職課程	農学科	中学校教諭一種免許状「理科」、高等学校教諭一種免許状「理科」「農業」
	農芸化学科	中学校教諭一種免許状「理科」、高等学校教諭一種免許状「理科」「農業」
	生命科学科	中学校教諭一種免許状「理科」、高等学校教諭一種免許状「理科」
	食料環境政策学科	中学校教諭一種免許状「社会」、高等学校教諭一種免許状「地理歴史」「公民」「農業」
学芸員養成課程	各学科	学芸員
社会教育主事課程	各学科	社会教育主事※1
司書課程	各学科	司書
司書教諭課程	各学科	司書教諭※2

※1 社会教育主事の資格を得るには、修了後1年以上社会教育主事補の職に就く必要があります。　※2 司書教諭の資格は、教員免許状を有する者にのみ、その効力を生じます。

[資格別 農学部で取得できる資格・受験資格等]

資格名称	学科	資格取得方法
技術士補	農学科	卒業後、申請することで資格が取得できます※
測量士補		卒業後、申請することで資格が取得できます※
自然再生士補		卒業後、申請することで資格が取得できます※
ビオトープ管理士2級		受験時に一部試験が免除となります※
甲種危険物取扱者	農芸化学科	受験資格
化学分析技能士		受験資格
栄養情報担当者		受験資格
ペット栄養管理士		受験資格
食品衛生責任者		任用資格
飼料製造管理者		任用資格
毒物劇物取扱責任者		任用資格
食品衛生監視員		任用資格※
食品衛生管理者		任用資格※
環境衛生監視員		任用資格※
遺伝子組換え生物等の立ち入り検査員		任用資格
特別用途食品の検査機関における試験員		任用資格

※所定の科目の修得が必要です。

入試情報

■自己推薦特別入学試験

明治大学農学部では、各学科の教育理念に強い関心と理解をもち、将来の可能性を期待できる個性や資質をもつ者を募集するため、自己推薦特別入学試験を実施します。このような条件を満たし、筆記試験では評価できない能力を有する者の積極的な応募を期待します。

学科	募集人数
農学科・生命科学科・食料環境政策学科	各学科10名
農芸化学科	8名

〈 出願資格 〉

a. 明治大学農学部志望学科を専願とし、合格の場合、入学が確約できる者。
b. 以下の1 2のいずれかの条件を満たす者。

1 公募生（学科により異なります）

学校教育法の定める
・高等学校又は中等教育学校(後期課程)
※明治大学付属高等学校(明治・中野・中野八王子)からも出願可能です。
・特別支援学校の高等部又は高等専門学校の3年次
・高等学校と同等と認定された在外教育施設の課程
・指定された専修学校の高等課程を
2018年4月1日から2019年3月31日までに卒業(修了)した者、または卒業(修了)見込みの者のうち、以下の各学科要件①または②の条件を満たす者。(注1)

農学科
① 全体の評定平均値が4.0以上の者。(注2)
② 在学中に学業以外に優れた活動歴がある者(注3)で、全体の評定平均値が3.5以上の者。(注2)

農芸化学科
① 全体の評定平均値が4.3以上の者。(注2)
② 在学中に学業以外に優れた活動歴がある者(注3)で、全体の評定平均値が4.0以上の者。(注2)

生命科学科
① 全体の評定平均値が4.0以上の者。(注2)
② 在学中に学業以外に優れた活動歴がある者(注3)で、全体の評定平均値が3.5以上の者。(注2)

食料環境政策学科
① 全体の評定平均値が4.0以上の者。(注2)
② 在学中に学業以外に優れた活動歴がある者(注3)で、全体の評定平均値が3.5以上の者。(注2)

※学業以外の優れた活動歴では特に研究発表・懸賞論文分野の実績のある者を重視します。

(注1) 公募生各学科要件①②について
公募生①の要件を満たす者で、在学中に学業以外に優れた活動歴をもつ者は公募生②として出願することもできます。入学志願票で選択してください。
(注2) 評定平均値について
出願時点において提出可能な最新の調査書における全体の評定平均値です。
※ 学校の制度やカリキュラムにより最終学年(3年生)の1学期または前期までの成績が記載されない場合は、2年生終了時までの成績が記載された調査書における全体の評定平均値です。
(注3) 学業以外の優れた活動歴について
高等学校在学中に、特筆すべき優れた能力を恒常的に発揮した者(但し、スポーツ競技は除く)で、それを具体的・客観的に証明する資料(書類・作品・記事・書籍等)を提出可能な者。

2 帰国生（全学科共通）

海外の高等学校を卒業(修了)した者または卒業(修了)見込みの者で、次の条件をすべて満たす者。
a 日本国籍を有する者。
b 国の内外を問わず通常の学校教育課程12年以上を修了した者または修了見込みの者。
c 海外において外国の教育課程に基づく高等学校に継続して2学年以上在籍し、かつ2018年4月1日から2019年3月31日までに卒業(修了)した者または卒業(修了)見込みの者。
d 大学入学資格試験または統一試験の要件を満たしている者。
e 保護者の海外在住に同伴し、上記a~dの要件に該当するに至った者。

出願期間	
第一次選考	2018年8月17日(金)～8月23日(木)
第二次選考	2018年9月10日(月)～9月14日(金)

	入学試験日	試験科目	合格発表日
第一次選考	–	●書類選考	2018年9月10日(月)
第二次選考	2018年9月22日(土)	●特別講義受講 ●特別講義に関する筆記試験 ●個別面接	2018年10月1日(月)

学科	2018年度				2017年度			
	第一次選考		第二次選考		第一次選考		第二次選考	
	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数
農学科	22	16	15	11	16	12	12	8
農芸化学科	13	12	12	9	19	13	13	8
生命科学科	20	15	14	7	28	16	16	11
食料環境政策学科	9	7	7	5	20	14	14	8

■地域農業振興特別入学試験

地域農業振興に対する強い意志、斬新な発想、そして具体的プランと行動力を持ち、地域農業振興という課題に対して、本学科で学んだ知識・経験をいかし、将来は自ら地域農業振興のリーダーとして仲間を巻き込みながら取り組む能力と志を有する者を募集します。

学科	募集人員
食料環境政策学科	9名

〈 出願資格 〉

次の①～③の全てに該当する者
① 地域農業振興に深い関心を持ち、将来、地域の農業振興を担うリーダーとして活躍することを志す者。
② 明治大学農学部食料環境政策学科を専願とし、合格の場合、入学が確約できる者。
③ 下記のいずれかに該当する者。
学校教育法の定める
・高等学校又は中等教育学校(後期課程)を2019年3月31日までに卒業見込みの者、または卒業した者。
・特別支援学校の高等部又は高等専門学校の3年次を2019年3月31日までに修了見込みの者、または修了した者。
・高等学校と同等と認定された在外教育施設の課程を2019年3月31日までに修了見込みの者、または修了した者。
・指定された専修学校の高等課程を2019年3月31日までに修了見込みの者、または修了した者。
・高等学校卒業程度認定試験(旧大検)を2019年3月31日までに合格見込みの者、または合格した者で、2019年3月31日までに18歳に達する者。

出願期間	
第一次選考	2018年 9月10日(月)～ 9月14日(金)
第二次選考	2018年10月 9日(火)～10月15日(月)

	入学試験日	試験科目	合格発表日
第一次選考	–	●書類選考	2018年10月9日(火)
第二次選考	2018年10月27日(土)または10月28日(日)	●総合面接(プレゼンテーション＋個別面接)	2018年11月12日(月)

学科	2018年度				2017年度			
	第一次選考		第二次選考		第一次選考		第二次選考	
	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数
食料環境政策学科	22	12	12	7	25	10	9	6

■その他特別入学試験

農学部では下記の特別入学試験も実施しています。詳細については各入試要項をご確認ください。
●スポーツ特別入学試験　●外国人留学生入学試験　●学士入学試験

※上記の各入試の出願条件および選考方法等については、必ずそれぞれの入試要項で確認してください。
※入試要項および出願書類は農学部ホームページよりダウンロードできます。公開時期は入試により異なります。

一般選抜入学試験

学科	募集人員	教科	試験科目	配点	試験時間
農学科	90名	国語、数学、理科 (4科目中2科目選択)	国語(国語総合「漢文を除く」)	1科目 100点 計200点	120分
農芸化学科	100名		数学(数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B「数列・ベクトル」)		
生命科学科	92名		化学(化学基礎・化学)、生物(生物基礎・生物)		
		外国語(1科目選択)	英語(コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ)、ドイツ語、フランス語	100点	60分
食料環境政策学科	79名	国語／地理歴史、公民、数学、理科 (国語を必須、他の7科目中1科目選択)	国語(国語総合「漢文を除く」)	1科目 100点 計200点	120分
			世界史B、日本史B、地理B、政治・経済		
			数学(数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B「数列・ベクトル」)		
			化学(化学基礎・化学)、生物(生物基礎・生物)		
		外国語(1科目選択)	英語(コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ)、ドイツ語、フランス語	100点	60分

出願期間(消印有効)	入学試験日	合格発表日
2019年1月4日(金)～2月1日(金)	2019年2月15日(金)	2019年2月23日(土)

学科	2018年度			2017年度			2016年度		
	受験者数	合格者数	競争率	受験者数	合格者数	競争率	受験者数	合格者数	競争率
農学科	1115	235	4.7	1288	227	5.7	1,338	275	4.9
農芸化学科	886	202	4.4	995	196	5.1	1,045	205	5.1
生命科学科	1205	276	4.4	1375	256	5.4	1,581	300	5.3
食料環境政策学科	1408	158	8.9	1049	177	5.9	1,009	181	5.6

全学部統一入学試験

学科	募集人員	教科	試験科目	配点	試験時間
農学科	20名	◇外国語	英語(コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ)、ドイツ語、フランス語から1科目選択 ◇英語4技能試験(資格・検定試験)のスコアが所定の基準を満たす者について、1時限目外国語の試験は免除とし、スコアに応じた得点を「英語」の得点として付与する。なお、1時限目外国語「英語」を受験した場合、いずれかの高得点を利用する。	100点	60分
農芸化学科	15名	理科	物理(物理基礎・物理)、化学(化学基礎・化学)、生物(生物基礎・生物)から1科目選択	100点	60分
		●下記の2教科2科目のうちから1科目を選択し、受験する。2科目を受験した場合には、高得点の科目を利用する。			
生命科学科	15名	国語	国語総合(漢文を除く)	100点	60分
		数学	数学(数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B「数列・ベクトル」)		60分
食料環境政策学科	8名	◇外国語	英語(コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ)、ドイツ語、フランス語から1科目選択 ◇英語4技能試験(資格・検定試験)のスコアが所定の基準を満たす者について、1時限目外国語の試験は免除とし、スコアに応じた得点を「英語」の得点として付与する。なお、1時限目外国語「英語」を受験した場合、いずれかの高得点を利用する。	100点	60分
		●下記の5教科9科目のうちから2科目を選択し、受験する。3科目を受験した場合には、高得点の科目を利用する。			
		国語	国語総合(漢文を除く)	200点 (100点×2)	60分
		地理歴史、公民、理科	世界史B、日本史B、地理B、政治・経済、物理(物理基礎・物理)、 化学(化学基礎・化学)、生物(生物基礎・生物)から1科目選択		60分
		数学	数学(数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B「数列・ベクトル」)		60分

出願期間(消印有効)	入学試験日	合格発表日	試験会場
2019年1月4日(金)～1月21日(月)	2019年2月5日(火)	2019年2月12日(火)	東京(本学キャンパス)、神奈川(本学キャンパス)、 札幌、仙台、名古屋、大阪、広島、北九州

学科	2018年度			2017年度			2016年度		
	受験者数	合格者数	競争率	受験者数	合格者数	競争率	受験者数	合格者数	競争率
農学科	480	119	4.0	530	84	6.3	471	75	6.3
農芸化学科	386	61	6.3	463	55	8.4	383	53	7.2
生命科学科	481	109	4.4	500	71	7.0	461	59	7.8
食料環境政策学科	425	51	8.3	332	54	6.1	313	44	7.1

※詳細は、一般入試要項(明治大学ホームページにて11月上旬公開予定)をご確認ください。明治大学は2016年度入試からWeb出願(特別入試・推薦入試を除く)となっています。

大学入試センター試験利用入学試験

学科	募集人員	教科	試験科目	配点	備考
農学科	12名	外国語	『英語』、『ドイツ語』、『フランス語』から1科目	100点	「英語」は、大学入試センター試験の筆記試験の配点200点を100点に換算、またはリスニングテストを含む配点250点を100点に換算し、いずれか高得点の成績を利用する。「ドイツ語」「フランス語」は、大学入試センター試験の配点200点を100点に換算する。
農芸化学科	10名	国語	『国語』	100点	大学入試センター試験の配点200点を100点に換算する。
		理科	「物理」、「化学」、「生物」、「地学」から1科目	100点	2科目を受験した場合には、第1解答科目の成績とする。
		●下記の2教科8科目のうちから1科目を選択。2科目以上を受験した場合には、高得点の科目の成績を合否判定に利用する。			
生命科学科	15名	数学	「数学Ⅰ」、『数学Ⅰ・数学A』、「数学Ⅱ」、『数学Ⅱ・数学B』	100点	
		理科	「物理」、「化学」、「生物」、「地学」		2科目を受験した場合には、第2解答科目の成績とする。
合計(4科目)				400点	
食料環境政策学科	16名	外国語	『英語』、『ドイツ語』、『フランス語』から1科目	100点	「英語」は、大学入試センター試験の筆記試験の配点200点を100点に換算、またはリスニングテストを含む配点250点を100点に換算し、いずれか高得点の成績を利用する。「ドイツ語」「フランス語」は、大学入試センター試験の配点200点を100点に換算する。
		国語	『国語』	100点	大学入試センター試験の配点200点を100点に換算する。
		●下記の4教科15科目のうちから1科目を選択。2科目以上を受験した場合には、高得点の科目の成績を合否判定に利用する。			
		地理歴史	「世界史B」、「日本史B」、「地理B」	100点	「地理歴史」「公民」をあわせて2科目を受験した場合には、第1解答科目の成績を合否判定利用の対象とする。 第2解答科目の成績は合否判定に利用しない。
		公民	「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」、 『倫理、政治・経済』		「地理歴史」「公民」をあわせて2科目を受験した場合には、第1解答科目の成績を合否判定利用の対象とする。 第2解答科目の成績は合否判定に利用しない。
		数学	「数学Ⅰ」、『数学Ⅰ・数学A』、「数学Ⅱ」、『数学Ⅱ・数学B』		
		理科	「物理」、「化学」、「生物」、「地学」		2科目を受験した場合には、第1解答科目の成績を合否判定利用の対象とする。 第2解答科目の成績は合否判定に利用しない。
合計(3科目)				300点	

出願期間(消印有効)	入学試験日(大学入試センター試験)	合格発表日
2019年1月4日(金)～1月18日(金)	2019年1月19日(土)・1月20日(日)	2019年2月12日(火)

学科	2018年度			2017年度			2016年度		
	受験者数	合格者数	競争率	受験者数	合格者数	競争率	受験者数	合格者数	競争率
農学科	651	211	3.1	706	197	3.6	622	208	3.0
農芸化学科	509	109	4.7	603	145	4.2	479	153	3.1
生命科学科	818	243	3.4	712	219	3.3	806	237	3.4
食料環境政策学科	617	139	4.4	514	132	3.9	466	128	3.6

※「平成30年度大学入試センター試験受験案内」を参照してください。

Q&A 入試編

Q 一般選抜入学試験において1時限に2科目を受験することになっていますが？

Answer 複数科目が合冊された試験冊子と2科目分のマークシートを配布しますので、その場で受験科目を2科目選択してもらいます。1時限は120分ありますので、選択した2科目の時間配分については各自で調節してください。(食料環境政策学科は国語が必須)

Q 化学や生物受験ではないので、大学に入ってから授業についていけるか不安です。

Answer 農学部の授業では化学や生物の基礎知識が必要になりますが、入学後に化学や生物が未履修の人にもサポートできるシステムや授業を用意していますので、努力次第で授業についていくことは十分可能です。

Q 選択科目による有利・不利はありますか？

Answer 科目ごとの得点状況を総合的に判断し、必要に応じて調整を行っていますので、科目選択の結果が有利や不利になるということはありません。自分の得意な科目で受験することが一番です。

Q 特別入試で他大学や他学部との併願は可能ですか？

Answer 農学部の特別入試は専願としています。「明治大学農学部入学を第一志望とする」、すなわち他大学を受験しても本学部に合格した場合は必ず入学することを条件としています。

OPEN CAMPUS

オープンキャンパス

実際にキャンパスへ来て、農学部をもっとくわしく知ろう！
オープンキャンパスでキャンパス見学ツアーや模擬授業を体験しよう！

［ 2018年度オープンキャンパス日程 ］

8月 2日(木)	10:00〜17:00［開場9:30］(予定)	駿河台キャンパス※
8月 3日(金)	10:00〜17:00［開場9:30］(予定)	駿河台キャンパス※
8月 4日(土)	10:00〜17:00［開場9:30］(予定)	駿河台キャンパス※
8月 8日(水)	10:00〜16:00［開場9:30］(予定)	生田キャンパス
8月 9日(木)	10:00〜16:00［開場9:30］(予定)	生田キャンパス

※駿河台キャンパスで開催されるオープンキャンパスは、Webで事前参加の登録が必要です。
駿河台キャンパスは食科環境政策学科のみ実施します。

オープンキャンパスに関する問い合わせ先
入学センター事務室 TEL.03-3296-4138
http://www.meiji.ac.jp/exam/event/opencampus/
月曜〜金曜 9:00〜11:30 / 12:30〜17:00 土曜 8:30〜12:00

キャンパス見学

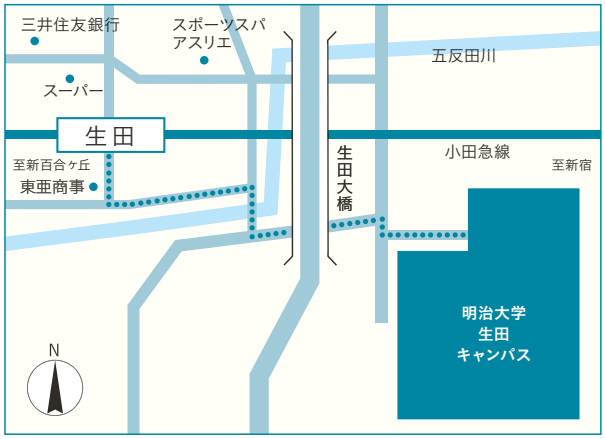
左記の日程以外でもキャンパス見学は自由にできます。事前の申し込みは必要ありません。ただし、年末年始、入試実施に伴う入構制限期間中および、そのほかの本学が定める日等は、見学ができない場合があります。また、団体での見学をご希望の場合は、下記ホームページをご覧ください。
http://www.meiji.ac.jp/koho/campus_tour/

進学相談会

明治大学は、全国各地で開催される進学(受験)相談会に参加しています。くわしくは、下記ホームページをご覧ください。
http://www.meiji.ac.jp/exam/event/shingaku/

農学部

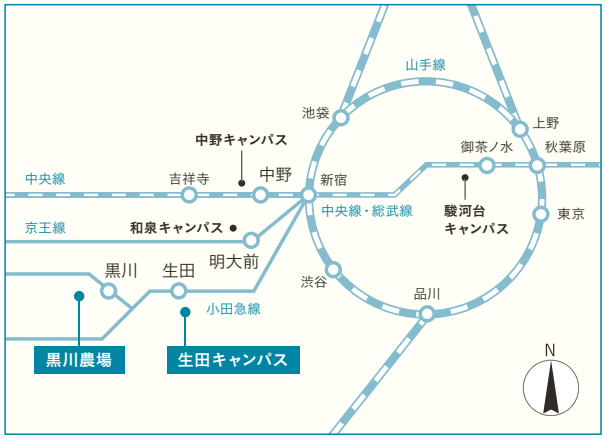
http://www.meiji.ac.jp/agri/
http://www.meiji.ac.jp/agri/daigakuin/nouken-top.html



農学部事務室

〒214-8571 神奈川県川崎市多摩区東三田1-1-1 TEL.044-934-7570
小田急線(準急・通勤準急・各駅停車)／生田駅下車、南口から徒歩10分

※新宿から(急行約20分)「向ヶ丘遊園駅」で下車し、準急・各駅停車に乗り換えて1駅(約3分)で下車
※小田原方面から「新百合ヶ丘駅」で下車し、準急・通勤準急・各駅停車に乗り換えて3駅(約7分)で下車



明治大学黒川農場

〒215-0035 神奈川県川崎市麻生区黒川2060-1
小田急多摩線／黒川駅下車、南口から徒歩25分

※小田急線小田原方面から「新百合ヶ丘駅」で下車し、小田急多摩線の各駅停車に乗り換えて3駅(約6分)で下車
※小田急線生田駅から(準急・各駅停車約6分)「新百合ヶ丘駅」で下車し、小田急多摩線の各駅停車に乗り換えて3駅(約6分)で下車

受験生向け明治大学入試総合サイト

● 明治大学入試総合サイトURL
http://www.meiji.ac.jp/exam/

● 明治大学 入試総合サイトの QR コード